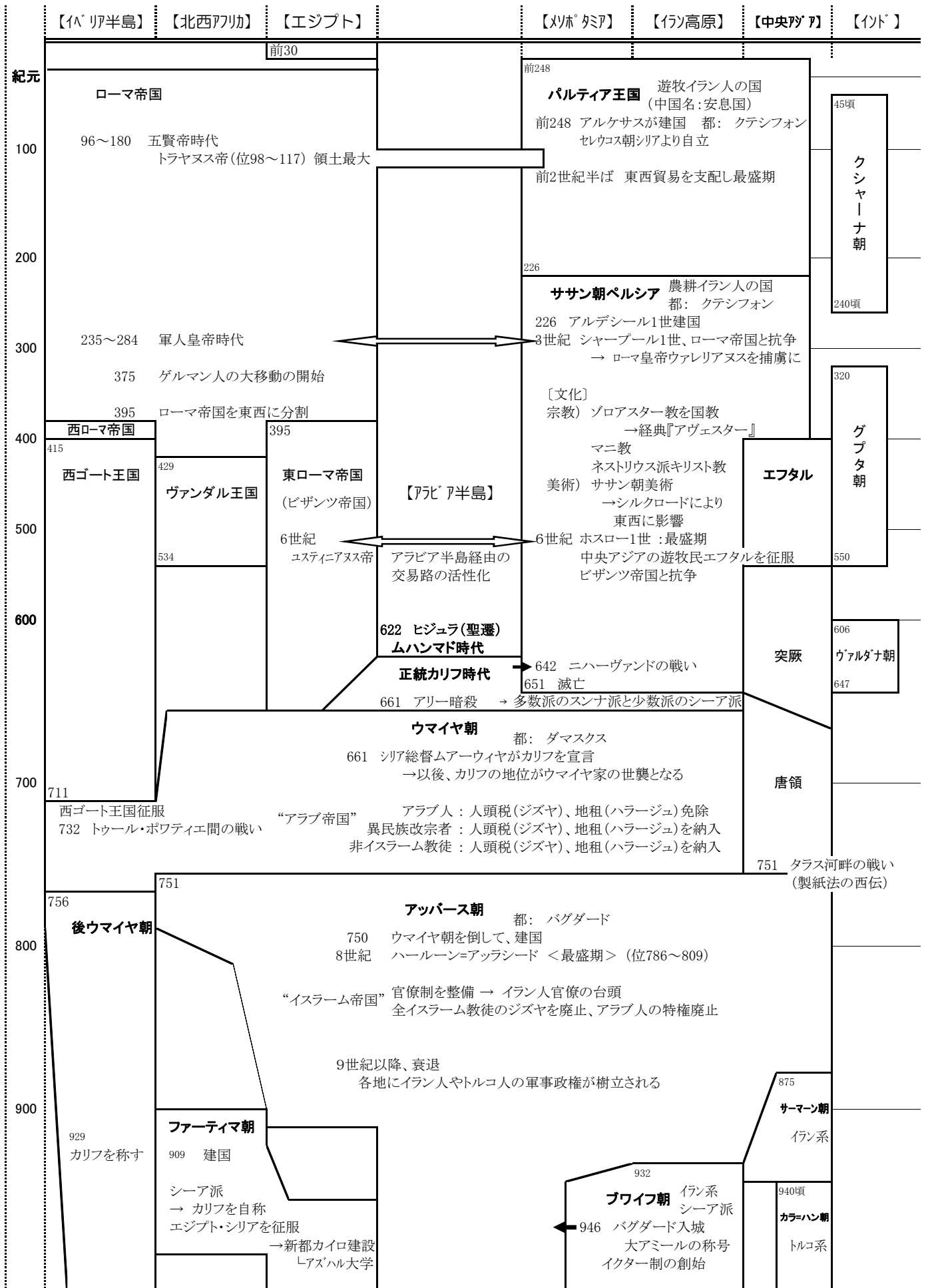
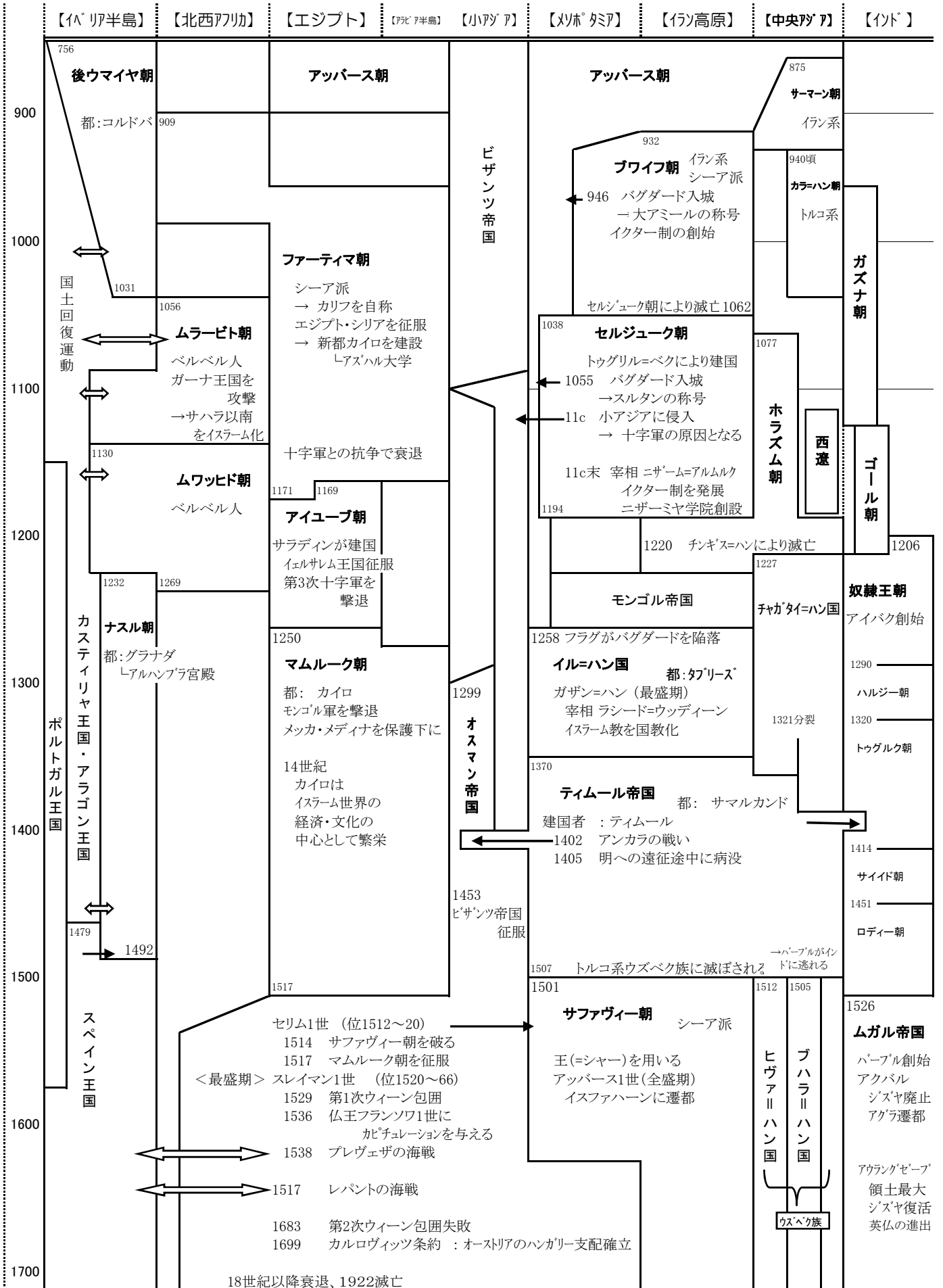


3古代イラン～イスラーム世界の成立



4イスラーム世界の発展



9 古代ギリシア

		自然 [山地が多く平野が少なく、複雑な海岸線 地中海性気候。オリーブ、オレンジ、ブドウなどの果樹栽培	
前2000頃	<p>オリент文明の影響 エーゲ海周辺 青銅器文明 王権の強大な国家 海上交易で繁栄</p>	<p>前2000 クレタ文明 エヴァンズの発掘 線文字A クレタ島のクノッソス宮殿 前1400</p>	<p>ギリシア人第一波南下 (アカイア人) 前1600 ミケーネ文明 アカイア人の文明 線文字B ギリシア本土ミケーネの城塞 シュリーマンによる発掘 前1200</p>
前1100頃		<p>(前1200~) ギリシア人第二波南下 (ドーリア人)</p>	<p>トロヤ文明 小アジア シュリーマンによる発掘 トロヤ戦争 前1200</p>
前800	暗黒時代 移動→定着 鉄器の普及 階級の分化が進む(貴族、平民、奴隷)		
古代ギリシア(ポリス社会)	成立期	<p>多数のポリス形成 ①集住(シノイクスモス)などにより ②アクロポリス、アゴラ(広場)などあり 城壁で防御を固める</p> <p>貴族政治 ①貴族が政権を独占して、平民は無権利 ②貴族は騎士としてポリスの防衛の主力をなす ③大土地所有者として経済力があつた</p> <p>アテネ民主政の進展 (平民の参政権要求) 前621頃 ドラコンの成文法 前594 ソロンの改革(財産政治) 前561 ペイシストラトスの僭主政治 民主政の確立 前508 クレイステネスの改革(オストラシズム、部族制度の改革)</p>	<p>ギリシア人の 同胞意識 [ヘレネスとバルバロイ オリンピアの祭典、デルフォイの神託</p> <p>スパルタ [①スパルタ市民の征服型ポリス リュクルゴスの制 ②ペリオイコイ(不完全市民) ③ヘロット(共有の隷属農民)</p> <p>・地中海、黒海沿岸に植民市の建設 (例)マッサリア、ネアポリス、ビザンティオン ・商工業の発達 [富裕な平民の出現 ・貨幣経済の発達 [平民の重装歩兵がポリス防衛の主力となる</p>
	全盛期	<p>ペルシア戦争 前500 イオニア植民市のペルシアへの反乱をアテネが援助したのを機に始まる 第1回 前492 トラキア・マケドニアがペルシアに屈服 第2回 前490 マラトンの戦い アテネの重装歩兵の活躍により撃退 第3回 前480 テルモピレーの戦い スパルタ軍全滅 前480 サラムスの海戦に勝利 テミстокレス率いるアテネ海軍、こぎ手の無産市民の活躍 前479 プラタイアの戦い アテネ・スパルタの連合軍が陸戦で勝利</p> <p>アテネの覇権 デロス同盟の盟主として [ペルシア戦争後、ペルシアの再攻 に備えて結成された軍事同盟</p> <p>アテネ民主政の完成 [無産市民にも参政権が与えられ市民の平等が完成 ペリクレス時代(前443~429) 将軍職として民主政を完成し、アテネの全盛時代</p> <p>奴隷制社会 [①生産活動は奴隷に依存 ②市民の余暇…文化発達 政治と軍事に従事</p>	
衰退期	<p>ペロポネソス戦争 アテネ・スパルタの覇権争い ポリス社会衰退の契機 スパルタが勝利 ※ペルシャのギリシア世界への干渉 アテネ…デロス同盟の盟主 スパルタ…ペロポネソス同盟の盟主</p> <p>スパルタの覇権 前374 レウクトラの戦い スパルタに対しテーベが勝利</p> <p>テーベの覇権</p> <p>マケドニア王国の台頭 (北方のギリシア人の王政国家) 前338 カイロネイアの戦い 国王フィリッポス2世 アテネ、テーベの連合軍がマケドニアに敗北</p> <p>前337 コリント同盟(ヘラス同盟)の結成 盟主マケドニアが覇権を確立 前336 アレクサンドロス即位</p> <p>○衆愚政治への変容 ・直接民主政の墮落した形態 ・デマゴーゴス(扇動政治家)が国政をあやつる</p> <p>○ポリス社会の衰退 長年の戦乱による疲弊 [①農業の衰退 大土地所有制の発達 ②市民間に貧富の差が拡大→中産市民の没落 ③傭兵への依存→軍事力の弱体化</p>		
前334	<p>アレクサンドロスの大帝国 前334 東方遠征に出発 オリентを征服支配</p> <p>前333 イッソスの戦い ペルシア王ダレイオス3世の軍を撃破 前332 エジプトを征服 ファラオに即位 アレクサンドリア市建設 前331 アルベラの戦い ペルシア軍を決定的に撃破 前330 アケメネス朝ペルシアを滅ぼす さらにイラン高原・中央アジア・西北インドを征服 ★統治策の特徴 前323 バビロンにて病死 ★ヘレニズム文化 東西文化の融合 国際共通語 コイネー</p> <p>ヘレニズム三国の分立 ←ディアドコイ戦争(後継者争い)前320~275 前301 イブソスの戦い ヘレニズム世界の3分裂が決定的となる</p>		
前30	<p>プトレマイオス朝エジプト 前304 首都アレクサンドリア ヘレニズム世界の中心として繁栄 前30 ローマに滅ぼされる</p>	<p>セレウコス朝シリア 前312 アジア領を継承 後にバクトリア・パルティア独立 前63 ローマに滅ぼされる</p>	<p>アンティゴノス朝マケドニア王国 前306 ギリシア本土を支配 前168 ローマに滅ぼされる</p>

10 古代ローマ

〔政治の変化〕

〔領土的発展〕

〔社会の変化〕

前500	王政	前753 伝説上のローマ市建設(ティベル河畔にラテン人が建国)、ロムルス・エトルリア人の王による支配	北部にエトルリア人の都市文明発達
前500	共和政	前509 共和政となる。貴族が政権を独占 前494 護民官の制度が生まれる 前471頃 平民会の設置 前450頃 十二表法の制定 最古の成文法	元老院が国政の中心 コンスルが行政・軍事を執行
前400		前367 リキニウス・セクスティウス法 内容 ①コンスルの一名を平民から選出 ②公有地占有の制限	平民の権利拡大 分割統治 ①植民都市 ②自治都市 ③同盟市
前300	共和政	前287 ホルテンシウス法 平民会の決議は、元老院の承認がなくても法律となる <身分闘争終了>	前272 タレントゥム占領 <イタリア半島の統一完成>
前200		地中海征服	ローマとカルタゴ(フェニキア人)との西地中海の覇権争い 前264 第1回 シチリア島の獲得→征服地の直接統治はじまる 前218 第2回 ハンニバルの カンネーの戦い...ローマ惨敗 イタリア半島侵入 ザマの戦い...大スキピオの勝利 前149~ 第3回 カルタゴ滅亡 小スキピオ活躍
前100	内乱の一世紀	前133 グラックス兄弟の改革 兄)ティベリウス 弟)ガイウス ★背景 ~121 大土地所有を制限し、無産市民に分配して中小自作農の育成を意 → 挫折 ★理由 市民間の対立抗争 閥族派(スプ) 平民派(マリウス)	前63 シリア征服 前58 カエサルの ~51 ガリア遠征 <地中海世界の統一>
紀元	元首政(プリンキパトゥス)	前27 アウグストゥス オクタヴィアヌスに元老院より与えられた称号、「尊厳者」 ~14 自らはプリンケプスと称する ★元首政の特徴 56 ①ネルヴァ ②トラヤヌス 帝国領土が最大となる ③ハドリアヌス ④アントニウス=ピウス 180 ⑤マルクス=アウレリウス=アントニウス	ローマの平和 ローマ帝国の全盛時代 ①属州の統治による収奪 ②ラティフンディア発達(奴隷制大農場) ③都市の発達(都市生活)各地に植民都市の建設 ④商業、貿易の発達 絹の道 インドの季節風貿易
200	帝政	カラカラ帝 属州の全自由民にローマ市民権を付与 軍人皇帝時代 周辺諸民族の侵入が激化 → 東)ササン朝ペルシアの侵入 権力闘争による政治の混乱 西)ゲルマン民族の侵入	混乱 奴隷制度のゆきずまり ↓ ★背景 コロナートゥスの発達 大所領におけるコロヌスの使用 ★その性格
300		専制君主制(ドミナトゥス)	ディオクレティアヌス帝 ドミヌスと称し専制君主制を開始 四帝分治制 最後のキリスト教徒大迫害 コンスタンティヌス帝 313 ミラノ勅令でキリスト教公認 330 コンスタンティノーブル遷都 325 ニケーア公会議 332 勅令でコロヌスを土地に緊縛 正統:アタナシウス派(三位一体説) 異端:アリウス派 背教者ユリアヌス テオドシウス帝 395 ローマ帝国の東西分裂 392 キリスト教の国教化 東ローマ帝国(都:コンスタンティノーブル) 431 エフェソス公会議 西ローマ帝国(都:ローマ) 異端:ネストリウス派 476 西ローマ帝国滅亡 ゲルマン人傭兵隊長オドアケルによる

12 中世ヨーロッパ諸国(1)

		【ローマ=カトリック教会】	【イベリア半島】	【イギリス】
9世紀	800 カール大帝の戴冠 一体的な西欧世界の形成	← 【レオ3世】 ビザンツとの対立 フランク王国と提携	後ウマイヤ朝 756~1031 イスラム教徒の支配	アングロ=サクソン族 七王国(ヘプターキー)分立 829 エグバート王による統一 =イングランド王国の成立 デーン人(ノルマン)侵入激化 アルフレッド大王が撃退
	フランク王国の分裂 仏・独・伊の3国形成へ ノルマン人の活動			
10世紀		【ヨハネス12世】 962 オットー1世に帝冠授与	10世紀の全盛期 カリフ:アブド=アッラフマーン3世 首都:コルドバの繁栄 経済・文化の隆盛	
11世紀	封建社会の全盛期 荘園の全盛期 封建制度の全盛期 国王→諸侯→騎士 1096 十字軍 1095 クレルモン宗教会議:十字軍遠征を提唱 ★発端 第3回十字軍 サラディンと講和 第4回十字軍 コンスタンティノープル占領 ラテン帝国樹立 ★影響 第7回	教会刷新運動 1054 クリュニー修道院中心 教皇権の全盛期 【グレゴリウス7世】 1077 カノッサの屈辱 ★意義 独皇帝:ハインリヒ4世 【ウルバヌス2世】 【インノケンティウス3世】 教皇権の絶頂期 第4回十字軍 英王ジョンを破門 托鉢修道会の成立 フランチェスコ修道会 ドミニコ修道会	1031 後ウマイヤ朝の滅亡 ベルベル人のイベリア半島進出 ムラービト朝 1056~1147 ムワッヒド朝 1130~1269	1016 デーン朝 ~42 デーン王のクヌートによる征服 1066 ノルマン朝 ~1054 【ウイリアム1世】 1066 ヘースティングスの戦い ノルマン=コンクエスト ノルマンディー公ウイリアムが ウイリアム1世として即位 例外的に、王権の強い封建国家
		中世都市の発達 中世文化の盛期 ロマネスク式大学の成立 騎士文学 ゴシック式スコラ学	1122 ヴォルムス協約 ★内容 異端] 南仏のアルビジョワ派(カタリ派) 【インノケンティウス3世】 教皇権の絶頂期 第4回十字軍 英王ジョンを破門 托鉢修道会の成立 フランチェスコ修道会 ドミニコ修道会	国土回復運動(レコンキスタ) キリスト教国による 12Cに北半分をキリスト教国が支配 ①アラゴン王国 ②カスティリヤ王国 ③ポルトガル王国
12世紀				
13世紀			ナスル朝 1238~1492 イスラム教徒最後の王朝 首都:グラナダ アルハンブラ宮殿	
14世紀	解体期 ダンテ出現 イタリア=ルネサンス始まる 荘園制の解体 貨幣地代へ 黒死病流行、人口激減 封建反動→農民戦争 1358 仏)ジャクリーの乱 1381 英)ワット=タイラーの乱	【ボニファティウス8世】 1303 アナーニ事件 ★原因 フランス王:フィリップ4世 1309 教皇のバビロン捕囚 南仏のアヴィニョンへ 1378 教会大分裂(シスマ) ~1417 教会批判 英)ウイクリフ ベ)フス		【エドワード3世】 1341 議会が二院制となる 1339 百年戦争 ~1453 争奪地:フランドル地方 エドワード黒太子の活躍 1381 ワット=タイラーの乱 僧 ジョン=ボール 独立自営農民の成立
		封建制度の解体 戦術の変化(火砲の普及) 騎士の没落→王権の強大化	1414 コンスタンツ公会議 ~18 1415 フスの火刑 1417 大シスマ終結	1415 ポ)エンリケ航海王子が ~ アフリカ西岸の探検推進 1479 スペイン王国成立 カスティリヤ女王イザベル アラゴン王フェルナンド 1492 ス)グラナダを陥落させる ス)コロンブスの新大陸到達 1498 ポ)ヴァスコ=ダ=ガマ インド到達
15世紀	英・仏・西・ポで中央集権国家 ドイツ・イタリアでは封建領主割拠			

12 中世ヨーロッパ諸国(2)

	【 フランス 】	【 イタリア 】	【 ドイツ 】	【ポーランド】	【 ロシア 】
9世紀		800 カール大帝の戴冠 ヨーロッパ主要部分の統一		東スラブ族のポーランド人	東スラブのロシア人
	【西フランク王国】	843 ヴェルダン条約 フランク帝国の分裂 870 メルセン条約 仏独伊3国の成立	【東フランク王国】		ノルマン人 による建国 862 ノヴゴロド国 ルーシ族のリュールリック 882 キエフ公国 の建国
10世紀	911 ノルマンディー公国成立 建国者 ロロ カロリング朝断絶	875 カロリング朝断絶	911 カロリング朝断絶 ザクセン朝始まる	カトリックに改宗	
	987 カペー朝 ハリ伯ユーグ=カペー即位		962 神聖ローマ帝国 955 マジヤール人撃退 962 オットー1世 が戴冠		989 ギリシア正教に改宗 キエフ大公ウラディミル1世 ビザンツ文化の移入 キリル文字(ギリシア文字をもとに)
11世紀	諸侯勢力は強く王権は弱体 封建国家の特色	諸侯や都市国家の分立	帝権は弱体 原因 諸侯による選挙王政 皇帝のイタリア政策 【ハインリヒ4世】 1077 カノッサの屈辱 教皇グレゴリウス7世に屈服		
12世紀	【フィリップ2世】 第3回十字軍、行政改革 ジョン王(英)より大陸の英領奪回 王権の強化へ	1130 両シチリア王国 ノルマン人ルジジェーロ2世 中世都市の成立 都市共和国 東方貿易に進出 海港 ジェノヴァ・ピサ ヴェネツィア 内陸 フイレンツェ・ミラノ 1167 北イタリアに ロンバルディア同盟成立	【フリードリヒ1世】 イタリア政策の推進 第3回十字軍に参加		
13世紀	【ルイ9世】 第6回、第7回十字軍の遠征 アルビジョワ十字軍 南フランスのカタリ派などの異端を弾圧 王領の拡大 【フィリップ4世】 1302 三部会 召集 1303 アナーニ事件で教皇に勝利(ボニファティウス8世) 1309 「教皇のバビロン捕囚」 ～1417	皇帝派(ギベリン) 教皇派(ゲルフ) の抗争 東方貿易で都市の繁栄	東方植民 ドイツ騎士団による 後のプロイセンの基礎 13世紀半ばごろ ハンザ同盟成立 1256 大空位時代 ～73 1291 スイスの独立運動始まる	モンゴル人の侵入 1241 ワールシュタットの戦い	1243 キプチャク=ハン国 バトゥ建国 首都:サライ 1271 モスクワ公国 成立 (ロシア人諸侯)
14世紀	1328 ヴァロワ朝 1339 百年戦争 ～1453 ★原因 1358 ジャックリーの乱	イタリア=ルネサンス 始まる 1307～21 ダンテ の『神曲』 トスカーナ語で記述	1356 金印勅書 の発布 皇帝カール4世 による 七選帝侯に皇帝選出権 ハンザ同盟 の全盛期 盟主:リュューベック	1386～1572 ヤゲヴォ朝成立	「タタールのくびき」
15世紀	【シャルル7世】 1428 ジャンヌ=ダルク の活躍 オルレアンを解く 1453 百年戦争に勝利 【シャルル8世】 中央集権化を達成 イタリア戦争	政治的分裂 北部 都市共和国、諸侯国 中部 ローマ教皇領 南部 ナポリ王国・シチリア王国 フイレンツェ) メディチ家 独裁へ 文芸保護	1414 コンスタンツ公会議 1415 フスの処刑 1419～36 バーメンでフス戦争 1438 以後、 ハプスブルク家 が、 ～1806 皇帝位を独占 諸侯・都市の割拠 →領邦(半独立の諸侯領)分立 1499 スイスが事実上の独立 実現		1480 モスクワ大公国 の自立 大公: イワン3世 ツァーリ(皇帝)を自称

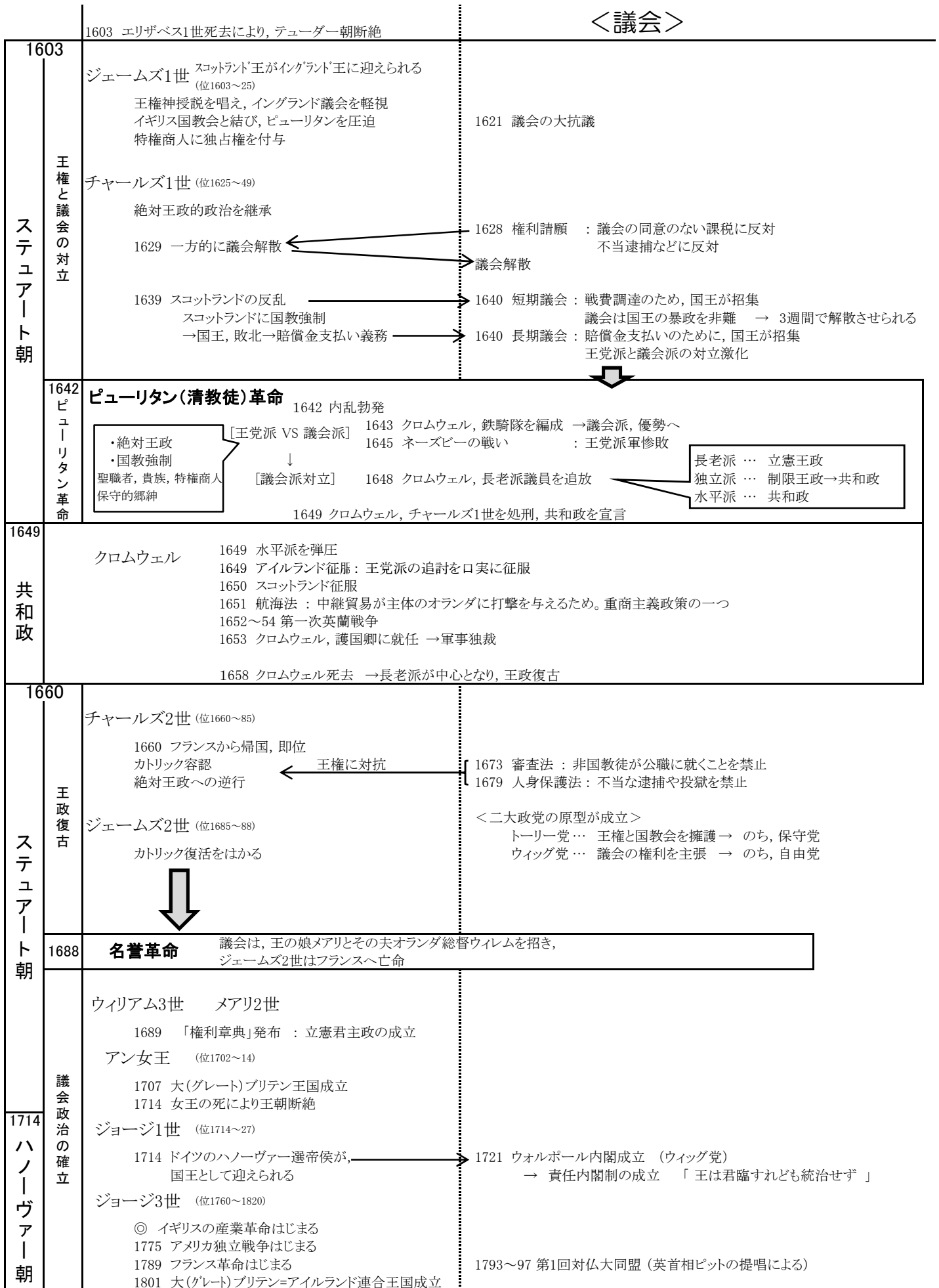
15 絶対主義(1)

	【スペイン絶対主義】	【オランダの独立と繁栄】	【イギリス絶対主義】	【フランス絶対主義】	
1500					1500
16世紀前半	ハプスブルク家 [カルロス1世]1516~56 神聖ローマ皇帝カール5世 反宗教改革の中心 ※中南米征服と植民地支配 銀の流入による富強化	ネーデルラント 現在の「ベルギー」 ハプスブルク家領 オランダ 商工業の繁栄	テューダー朝 1485~1603 [ヘンリー8世]1509~47 1534 首長法:カトリック教会と絶縁 イギリス国教会の成立 [エドワード6世]1537~53 カルヴァン主義的祈祷書を制定	ヴァロア朝 1328~1589 [フランソワ1世] 1515~47 1521 イタリア戦争(~44) ↳カール5世と対立 1536 オスマン帝国からカピチュレーション	16世紀前半
	[フェリペ2世] 1556~98 世界最強の無敵艦隊保持 1571 レパントの海戦 ↳地中海で勝利 1571 フィリピンにマニラ建設 1580 ポルトガル併合 →“太陽の沈まぬ国” 1588 アルマダ海戦での敗北	スペイン領となる カルヴァン派市民=※北部と南部の相違 1568 オランダ独立戦争始まる 1579 南部10州の脱落 ユトレヒト同盟 結成 1581 独立宣言 指導者: オラニエ公ウイレム	[メアリ1世] 1553~58 カトリック復活、新教徒を弾圧 [エリザベス1世] 1558~0 1559 統一法:英国教会の確立 《毛織物工業発達》 オランダ独立戦争を支援 1588 スペインの無敵艦隊を破る 1600 東インド会社 設立	1562 ユグノー戦争 ~98 1572 サン=バルテルミの虐殺 ブルボン朝 1589~1830 [アンリ4世] 1589~1610 ユグノーの首領、カトリックに改宗 1598 ナントの勅令 発布	
1600		1609 休戦条約で事実上独立			1600
17世紀前半	衰退へ	オランダの繁栄 [毛織物工業の発達 中継貿易:東洋貿易独占 新大陸貿易] 首都アムステルダムは国際商業と 金融の中心として繁栄 1648 ウェストファリア条約 で独立承認	ステュアート朝 1603~1714 [ジェームズ1世] 1603~25 王権神授説、議会对立 [チャールズ1世]1625~49 1628 権利の請願 1642 ピューリタン革命 ~49 共和政 護国卿クロムウェルの独裁 1651 航海法制定 →英蘭戦争 王政復古 [チャールズ2世]1660~85 議会が専制政治に反発 → 審査法・人身保護法 [ジェームズ2世] 1685~88 1688 名誉革命 1689 権利章典 [ウィリアム3世・メアリ2世] [アン女王] 1702~14 1707 大ブリテン王国成立	[ルイ13世] 1610~43 1614 以後、三部会の招集を停止 宰相:リシュリユー ・王権の強化を推進 ・三十年戦争に干渉 [ルイ14世] “太陽王” 1643~1715 宰相:マザラン ↳フロンドの乱 鎮圧	17世紀前半
		1652 英蘭戦争に敗北 ~74 以後、衰退	1661~ ルイ14世の親政 王権神授説“朕は国家なり” 財務長官:コルベール ↳重商主義の推進 ヴェルサイユ宮殿の造営 対外的侵略戦争 自然国境論 ①南ネーデルラント継承戦争 ②オランダ侵略戦争 ③フェルトン継承戦争		
1700					1700
18世紀前半	スペイン=ブルボン朝 [フェリペ5世]1700~46 ルイ14世の孫 スペイン継承戦争		ハノーヴァー朝 1714~ [ジョージ1世] 1714~27 ●責任内閣制の成立 首相ウォルポール “君臨すれども統治せず”	1685 ナントの勅令 廃止 1701 ④スペイン継承戦争 ~13 →ユトレヒト条約 [ルイ15世] 1715~74 ※啓蒙思想	18世紀前半
			第二次英仏百年戦争 1763 パリ条約 産業革命の開始 [ジョージ3世] 1760~1820 1775 アメリカ独立革命 ~1783 パリ条約	1789~フランス革命	
1800					1800

15 絶対主義(2)

	【神聖ローマ帝国(ドイツ)】	諸侯の勢力強く 中央集権すすまず	【ロシア絶対主義】	
1500	ハプスブルク家		モスクワ大公国 1328~1589	1500
16 世紀前半	[カール5世] 1519~56	ルターの宗教改革	[イヴァン3世] 1480 キプチャク=ハン国より自立	16 世紀前半
	宗教改革を弾圧 他国の王を兼ねる (スペイン王、ナポリ王)	1517 「95か条の論題」を発表 1519 ライプチヒ論争 1521 ヴォルムス帝国議会 1524 ドイツ農民戦争 指導者:トマス・ミュンツァー	[イヴァン4世] “雷帝” 1533~84 農奴制の再強化 貴族をおさえ専制政治 1547 ツァーリ(皇帝)を公称	
1529 ウィーン包囲 ↳オスマン帝国による	1529 シュパイエル議会でルター派を禁止 1530 シュマルカルデン同盟 成立 1546~47 シュマルカルデン戦争			
16 世紀後半		1555 アウクスブルクの和議 ①諸侯・都市に信仰選択の自由を認めた ②カトリックまたはルター派のみ (カルヴァン派は認められない) ・ルター派は、北ドイツ・北欧に広まる	1581 コサック首長イェルマークによる シベリア進出	16 世紀後半
1600	三十年戦争 性格: [宗教戦争 → 国際戦争化 皇帝と諸侯の対立]		ロマノフ朝 1613~1917	1600
17 世紀前半	1618 ベーメンの新教徒の反乱 にはじまる 皇帝側で 傭兵隊長ヴァレンシュタイン 活躍 新教側に デンマーク王 クリスチャン4世(ルター派) スウェーデン王グスタフ=アドルフ(ルター派) フランス(旧教国) 参戦: 宰相リシュリューによる		[ミハイル=ロマノフ]の即位	17 世紀前半
	1648 ウェストファリア条約 ①アウクスブルクの和議を再確認し、カルヴァン派も認める ②フランス・スウェーデンが領土獲得 ③スイス・オランダの独立承認 ④ドイツ領邦主権が確立 → 神聖ローマ帝国が事実上解体		農奴制の強化	
17 世紀後半	結果 { ヨーロッパの主権国家体制が固まる ドイツの都市・農村の荒廃(人口が3分の1に減少)		1670 ステンカ=ラージンの乱 ~71 ↳大規模な農奴反乱	17 世紀後半
1700	【オーストリア絶対主義】		【プロイセン絶対主義】	1700
18 世紀前半	ハプスブルク家 オーストリア以外にも広大な領土	ホーエンツォレルン家 1701 プロイセン公国が王国となる	[ピョートル1世(大帝)] 1682~25 ・西欧化を推進 ・軍備拡大 1689 ネルチンスク条約	18 世紀前半
	[カール6世] 1711~40	[フリードリヒ=ヴィルヘルム1世] プロイセン軍国主義の基礎	1700 北方戦争: 対スウェーデン ~21 バルト海への出口確保 ↳首都ベテルブルク建設 農奴制の強化	
18 世紀後半	[マリア=テレジア] 1740~80	[フリードリヒ2世(大王)] 1740~86	1727 キャプタ条約 1728 ベーリング海峡到達 1741 アラスカ到達と領有	18 世紀後半
	1740 オーストリア継承戦争 ↳オーストリアはシレジアを失う 1756 七年戦争 ~63	啓蒙専制君主 : ヴォルテールを招く ↳“君主は国家第一の僕” サン=ソン宮殿を造営 ユンカー(土地貴族)を基盤	[エカチェリーナ2世] 1762~96 啓蒙専制君主 : ヴォルテールと親交 1773 プガチョフの乱: 農奴反乱	
1800	[ヨーゼフ2世] 1765~90 啓蒙専制君主 として改革、しかし挫折		3回のポーランド分割 1780 武装中立同盟 提唱 1792 ラクスマンの根室来航	1800

16 イギリス市民革命



17 アメリカ独立革命

<アメリカ>

<イギリス本国>

13 植民地の成立

1607 ヴァージニア植民地の建設 <最初の植民地>
 1620 ピルグリム=ファーザーズのプリマス上陸
 メイフラワー号で、イギリスから移住
 1664 英蘭戦争により、ニューアムステルダム占領 → ニューヨークに改称
 1732 ジョージア植民地の建設 <13植民地成立>

- 重商主義政策
- 「有益なる怠慢」政策
植民地に大幅な自治を認める

英仏植民地争奪戦

1689~97 ウィリアム王戦争
 1702~13 アン女王戦争
 1744~48 ジョージ王戦争

1775~63 フレンチ=インディアン戦争(七年戦争の一環)
 1763 パリ条約 : イギリス勝利 → イギリスはミシシッピ以東のルイジアナ獲得

財政悪化

- 植民地への課税
- 統治の強化

対立の激化

1765 「代表なくして課税なし」 ←
 植民地側は本国に代表を送っていないので、
 本国議会は植民地人に課税する権利をもたないとした

1767 イギリス製品不買運動 ←

1773 ボストン茶会事件 ←
 急進派市民がボストン港に停泊していた東インド会社船を襲撃
 積み荷の茶をすべて海中に投棄

1774 第1回大陸会議 開催 (フィラデルフィア) ←
 13植民地の代表からなる連絡会議
 独立宣言の後は、事実上のアメリカ政府として機能

1775 パトリック=ヘンリの演説 「自由を、しからずんば死を」

- 重商主義政策の強化 英国王:ジョージ3世

1765 印紙法 : 書類・刊行物すべてに印紙義務付け

1767 タウンゼント諸法 : 課税強化

1773 茶法 : 茶の独占販売権を東インド会社に付与
事実上の増税

1774 ボストン港閉鎖 : 茶会事件に対する報復措置
一部の植民地の自治権はく奪

独立戦争

1775 レキシントン の戦い : 独立戦争開始
 1775 第2回大陸会議 → ワシントンを植民地軍総司令官に任命
 1776 トマス=ペイン 『コモン=センス』 発刊
 王政からの独立の正当性と共和国樹立の必要性を訴え、
 独立の機運を高揚

1776.7.4 独立宣言 発布 トマス=ジェファソンらが起草
 : ロックの自然法思想を基盤に、基本的人権・革命権を主張

1777 サラトガの戦い : 植民地軍が勝利
 1778 英仏同盟結成 → フランスが、植民地側に参戦(ルイ16世) 駐仏大使フランクリンの活躍
 その後、スペイン・オランダが、植民地側に参戦

1780 武装中立同盟結成 : エカチェリーナ2世が提唱
 イギリスを孤立化させ、アメリカの独立を間接的に援助

1781 ヨークタウンの戦い : 植民地勝利 <独立戦争の勝利が事実上確定>

1783 パリ条約 : イギリスがアメリカの独立承認 ミシシッピ以東のルイジアナを割譲

<p><植民地側></p> <p>世論三分</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 愛国派 ● 中立派 ● 国王派 	<p><イギリス本国></p> <p>国王ジョージ3世</p> <p>政府(トーリ党) VS 野党(ウィッグ党)</p>
---	--

1783

- 独立は果たしたが、それぞれが独立の憲法をもつ13州のゆるい連合体
- 中央政府は弱体

↓

1787 合衆国憲法 制定 : フィラデルフィアの憲法制定会議において

《三大特色》

- 連邦主義 : 連邦政府の権限強化, 各州に広範な権限を付与
- 人民主権
- 三権分立

《限界》

- 先住民, 奴隷の権利は無視

↓

連邦派 と 反連邦派 の対立

↓

1788 各州の批准により発効 <世界初の成文憲法>

1789 連邦政府の成立 : 初代大統領 ワシントン

1800 新首都 ワシントン 建設 (それ以前はフィラデルフィア)

18 フランス革命

		〔革命の進行〕	〔反革命の動き〕
1789.5	三部会 第一身分(聖職者) } 特権身分 第二身分(貴族) } 第三身分(平民) 改革を要求 シェイエス『第三身分とは何か』	89.5 三部会の招集：免税特権の廃止に関し ↓ 議決方法をめぐる特権階級と第三身分の対立	《三部会招集の背景》 国家財政の破綻 テュルゴー 財政改革 ネットレル 特権階級への課税を企図(失敗) 特権階級による三部会招集の要求
1789.6	国民議会 [第三身分代表が結成] のち、第一身分の多くと 第二身分の一部が合流 王党派(特権階級の貴族や上級聖職者) 絶対王政と旧制度の維持主張 立憲君主派(自由主義貴族・上層市民) 王権制限と経済活動の自由を主張 指導者 ミラボー(自由主義貴族) ラファイエット(II)	89.6 国民議会の成立(第三身分が成立を宣言) 89.6 テニスコート(誓い(憲法制定まで解散せず)) 89.7 憲法制定に着手【憲法制定議会】 89.7.14 バステューユ牢獄の襲撃 パリ民衆の蜂起 全国的に農民蜂起がおこる 89.8.4 「封建的特権の廃止宣言」★内容 89.8.26 「人権宣言」採択 ★内容 ラファイエットらが起草 89.10 ヴェルサイユ行進 国王一家をパリに連行 議会も民衆監視下のパリに 90 議会による諸改革すすむ ①教会財産の国有化 ③ギルドの廃止 ②アッシニア債券発行 91.9 「91年憲法」の制定 ①立憲君主政 ②財産制限選挙 (国民の17%)	←国王ルイ16世による議場閉鎖 ←国王が蔵相ネットレルを罷免 ←国王は軍隊により国民議会の解散をはかる ←国王が両宣言の承認を拒む ←ローマ教皇の革命非難 ←91.6 ヴァレンス逃亡事件 ←91.8 ビルニッツ宣言 塙・普君主が革命干渉を表明
1791.10	立法議会 [制限選挙により選出] フイヤン派(自由主義貴族・上層市民) 立憲君主主義を主張 ジロンド派(中流市民) 穏健共和主義を主張	91.10 立法議会の成立 立憲君主政 92.3 ジロンド派内閣の成立 92.4 オーストリアに宣戦布告(革命戦争開始) 全国から義勇兵がパリに終結 革命歌「ラ=マルセイユーズ」 92.8 8月10日事件 民衆によるテュイルリー宮殿襲撃 92.8 立法議会は王権停止、国民公会の招集を決定 92.9 ヴァルミーの戦いに勝利(革命軍の戦局好転)	←オーストリア、プロイセン軍の侵入 ←地方の王党派の暴動
1792.9	国民公会 [男子普通選挙により選出] ジロンド派(中流市民) 穏健共和主義を主張 ジャコバン派(下層市民の支持) 急進共和主義を主張	92.9 国民公会の招集 王政廃止と共和政宣言 第一共和政 国王の裁判 93.1 ルイ16世の処刑	英首相ピットが提唱 ←93.3 第1回対仏大同盟の結成 ←93.3 ヴァンデーの反革命反乱
1793.6	国民公会の独裁 ジャコバン派(山岳派)が権力掌握 指導者 ダントン、マラー ロベスピエール 執行 公安委員会 機関 裁判 革命裁判所 警察 保安委員会	93.6 民衆が国民公会よりジロンド派議員追放 93.6 「93年憲法」の制定 特色 共和政 (ジャコバン憲法) 普通選挙 93.7 封建的特権の無償廃止を決議 ★意義 改革 ①最高価格令 ②徴兵制 ③理性崇拜 ④革命暦 ⑤メートル法 恐怖政治を行い、反革命派を処刑(ギロチン) 93.10 マリー=アントワネット処刑	←対仏大同盟軍の侵入・優勢
1794.7	テルミドール派の支配の復活 (穏健共和派)	94.7 テルミドール(9日)のクーデタ ★原因、意義 →ロベスピエール派の処刑	
1795.10	総裁政府 上下の二院制 5人の総裁 ナポレオンが権力を掌握	95.8 「95年憲法」の制定 特色 共和政 制限選挙 95.10 総裁政府の成立 政府の弱体 ・経済の混乱 左右からの反政府運動による社会不安 96.5 バブーフ(共産主義者)の政府転覆計画 99.11 ブリュメール18日のクーデタ	←王党派の反乱 英首相ピットが提唱 ←99.3 第2回対仏大同盟の結成

19 ナポレオン時代

ナポレオン=ボナパルト (1769~1821)
 革命前は、コルシカ島生まれの下級貴族として砲兵少尉
 1789 (20歳)フランス革命勃発、革命派軍人として活躍
 1794 テルミドールの反動で失脚、死刑は免れる
 1795 王党派の反乱に苦しむ総裁政府に登用され、鎮圧に功績をあげる
 1796 イタリア遠征軍司令官、オーストリアを屈服させ第1回対仏大同盟を瓦解させる
 1798 エジプト遠征 アブキール碗の海戦でネルソンに敗れ、苦戦
 [このとき学者が、ロゼッタ=ストーンを発見]

1799	1799.11.9 ブリュメール18日のクーデタ ★背景、支持基盤(商工業市民・小農民) 対外的危機の克服 →第2回対仏大同盟(99.3) 1800 イタリア遠征 オーストリアが屈服 1801 コンコルダート(宗教協約) 教皇との和解 1802 アミアンの和約(対英講和条約) →第2回対仏大同盟の解消 1803 米にルイジアナを売却	内政面の成果 [革命の成果を定着] 統領政府(3人の統領) 第一頭領として独裁的権力を握る 1800 フランス銀行の設立 中央銀行 国民教育制度の確立 1802 憲法を改正し、終身統領となる 1804 ナポレオン法典の制定 ★法の下での平等、個人の自由、所有権 の絶対を規定、近代市民社会の法規範
1804	1804 皇帝に即位 ナポレオン1世 <第一帝政始まる> ←1805 第3回対仏大同盟結成 国民投票で圧倒的支持 1805 トラファルガーの海戦(対英) ネルソンに敗れる 1805 アウステルリッツの三帝会戦(対奥・普) 勝利 オーストリアが屈服 → 第3回対仏大同盟の崩壊 1806 ライン同盟の成立 南西ドイツの16領邦を服属させて衛星国とする →「神聖ローマ帝国」の解体 →「オーストリア帝国」となる 1806 イエナの戦い(対普)に勝利 ベルリン入城 1806 ベルリン勅令(大陸封鎖令)(対英) ★背景、内容、影響 1807 ティルジット条約(対普・露) プロイセン領の半分を奪う ワルシャワ大公国創設(旧 ポーランド) 1807 スペイン征服 兄ジョセフ スペイン王 弟ルイ オランダ王 1810 ハブスブルク家のマリー=エリズと結婚 ナポレオンの絶頂期	民族意識の覚醒 反フランス・反ナポレオンの動き 1807(普) シュタイン・ハルデンベルクの改革 ~ 農奴解放・行政改革・軍政改革・教育改革 哲学者フィヒテの演説「ドイツ国民に告ぐ」 1808 スペインの反乱(半島戦争) ★ゴヤの絵 以後、ゲリラ的蜂起が続き、鎮圧に苦しむ 1810 ロシアが大陸封鎖令を無視
1812	1812 ロシア遠征(6月~12月) 61万の大軍で侵入したが敗退 1813 ライプチヒの戦い(諸国民戦争)に敗北 1814 同盟軍にパリが占領され降伏 1814 ナポレオン退位し、エルバ島に配流 1814 ウィーン会議始まる(~1815.6) 戦後処理の国際会議 1815.2 ナポレオンがエルバ島脱出、パリに入り権力奪取 .6 ワーテルローの戦い ウェリントン将軍(英)に敗北 .10 セント=ヘレナ島へ配流(南大西洋の孤島)	1813 第4回対仏大同盟の結成 : ヨーロッパの大半の国が参加 ブルボン朝復活 ルイ18世の即位 ウィーン会議(1814~15) 「会議は踊るされど会議は進まず」 1815.6 ウィーン議定書
1815		

20 19世紀の欧米(1)

【フランス】

【イギリス】

1814~15 ウィーン会議

原理) ・正統主義
・勢力均衡

ラテン=アメリカ諸国の独立

指導者 シモン=ボリバル (北部)
サン=マルティン (南部)

1821~29 ギリシアの独立

1830 ロンドン会議で独立を承認

ウィーン体制の動揺

1830 ベルギー独立
1830~31 ポーランド反乱 →鎮圧

◎大陸諸国の産業革命始まる
◎アメリカ合衆国の発展

◎社会主義の台頭
〔英〕ロバート=オーウェン
〔仏〕サン=シモン
〔仏〕フーリエ
1848『共産党宣言』(マルクス=エンゲルス)

1848 ウィーン体制の崩壊“諸国民の春”

1848 フランクフルト国民議会 :ドイツの政治的統一を目指す
イタリアの統一への動き
マッツィーニ、「ローマ共和国」樹立→失敗

1861 イタリア王国成立
1861 南北戦争
1861 農奴解放令(ロシア)
1864 第1インターナショナル結成
東方問題

1871 ドイツ帝国成立

1875 スエズ運河会社株を買収
1878 ベルリン会議
1882 三国同盟 成立
1884 ベルリン会議 (ベルリン=コンゴ会議)~85)

1889 第2インターナショナル結成

帝国主義の時代

ブルボン朝 (復古王政)

[レイ18世] 1814~25
・欽定憲法 ・反動政治
・ウィーン会議にタレーランが出席

[シャルル10世] 1824~30

・反動政治を強行
貴族, 聖職者を保護
1830 アルジェリア遠征

1830 フランス七月革命

七月王政(オルレアン家)

[ルイ=フィリップ] 1830~48
制限選挙制, 貴族の世襲廃止
金融資本家が支配する政治

《1830年代 産業革命の開始・進展》
産業資本家→ブルジョワ共和派
賃金労働者→社会主義者

1848 フランス二月革命

第二共和政

1848 大統領にルイ=ナポレオンが当選
→クーデタ成功、国民投票により即位

第二帝政

[ナポレオン3世] 1852~70
1853~56 クリミア戦争
1856~60 アロー戦争
1858~67 仏越戦争:ベトナムに派兵
1859 イタリア統一戦争を支援
1861~67 メキシコ出兵に失敗

1869 スエズ運河 開通

第三共和政

1870 普仏戦争に敗北, 皇帝退位
1871 臨時政府樹立
独にアルザス・ロレーヌを割譲
↓
パリ=コミューン成立(鎮圧)

1875 第三共和国憲法 制定

チュニジア・インドシナを植民地化

1884~85 清仏戦争
1887~89 ブーランジェ事件
↳クーデタ未遂事件

1891 露仏同盟 成立
1894~99 ドレフュス事件

1801 大ブリテン=アイルランド連合王国 成立
1811 ラダイト運動(機械打ちこわし)
~17

《1820年代 産業資本家の台頭》

カニングの自由主義外交
↳ラテン=アメリカの独立を支持

ギリシアの独立を支援

1828 審査法廃止:非国教徒への公職開放
1829 カトリック教徒解放法:オConnellらの尽力

1832 第1回選挙法改正:腐敗選挙区の廃止
産業資本家が議会進出
1833 工場法 成立:ロバート=オーウェンによる

1837 チャーチスト運動
~48 ↳人民憲章を掲げて請願運動
労働者の参政権獲得を要求

[ヴィクトリア女王] 1837~1901

政党再編成
〔トリー党 → 保守党
ウイッグ党 → 自由党

1846 穀物法 廃止:コブデン=ブライトラ
の反穀物法同盟

1849 航海法 廃止=イギリスの
自由主義体制の確立

《1840年代 ジャガイモ飢饉》

1853~56 クリミア戦争
1856~60 アロー戦争

二大政党による政党政治

●自由党 首相:グラッドストーン
1870 教育法 制定→1880初等教育義務化
1884 第3回選挙法改正
↳事実上の男子普通選挙

●保守党 首相:ディズレーリ
1875 スエズ運河会社株を買収
1877 インド帝国樹立
1878 ベルリン会議:キプロス島の行政権獲得

1881~82 ウラービーの乱鎮圧(エジプト)

1884 フェビアン協会の結成
1886 アイルランド自治法案 否決
1887 第一回植民地会議開催

1899~02 南アフリカ戦争(ブール戦争)

20 19世紀の欧米(2)

	【アメリカ】	【イタリア】	【ドイツ】	【ロシア】
1814	1812 米英戦争 ～14 (第2次独立戦争)	政治的分裂 〔北) 諸侯領 中) 教皇領 南) 両シチリア王国〕	ウィーン会議の結果 ドイツ連邦成立(事実上分裂状態)	ロマノフ朝 〔アレクサンドル1世〕 1801～25 1815 ウィーン会議出席、神聖同盟提唱 〔ツァーリズム〕 〔農奴制の継承〕
	1819 スペインよりフロリダ買収 1820 ミズーリ協定 ↳北緯36° 30' 以北は自由州 1823 モンロー教書 ヨーロッパとの相互不干渉 合衆国の外交政策の基本			
	〔ジャクソン 大統領〕 1829～37 ・西部出身 ・ジャクソニアン=デモクラシー ・政党の成立 1830 インディアン強制移住法制定	1831 カルボナリの反乱失敗 1831 「青年イタリア」結成 指導者: マッツィーニ イタリア統一運動 (リソルジメント)	1834 ドイツ関税同盟 発足 ・経済学者リストが提唱 ・経済的統一の推進 《1840年代 産業革命の進行》	1830 ポーランドの反乱を鎮圧 南下政策の失敗 1831 第一次エジプト=トルコ戦争(～33) 1839 第一次エジプト=トルコ戦争(～40)
	西部開拓すすむ 1845 カンザス=ネブラスカ法 1845 テキサス併合(墨より) 1846 オレゴン併合(英より) 1846 アメリカ=メキシコ戦争 ～48 → カリフォルニア獲得			
1848	ゴールド=ラッシュ 南部と北部の対立激化 1852 ストックマンの 小説『アンクルトムの小屋』 1854 共和党結成 奴隷制をめぐる対立激化	1848 サルデーニャ王国の統一運動 1849 ローマ共和国 成立→失敗 指導者: マッツィーニ	1848 三月革命 → メッテルニヒ亡命 1848 フランクフルト国民議会 ～49 〔大ドイツ主義〕の対立 〔小ドイツ主義〕 →小ドイツ主義の勝利	1853 クリミア戦争(～56) →敗北
	〔リンカーン大統領〕 1860～65 ・共和党 1861 南部はアメリカ連合国 建国 1861～65 南北戦争 1862 ホームステッド法 制定 1863 奴隷解放宣言 1865 南部首都リッチモンド陥落 1867 アラスカ買収(露より) 1869 大陸横断鉄道 完成	〔ヴィットーリオ=エマヌエーレ2世〕 サルデーニャ王のちイタリア初代国王 首相: カヴール 1855 クリミア戦争参戦 1859 イタリア統一戦争 →ロンバルディア獲得 1860 中部イタリア併合 1860 青年イタリアの ガリバルディ 両シチリア王国征服・献上 1861 イタリア王国成立 1866 普墺戦争→ヴェネツィア併合 1870 普仏戦争→ローマ教皇領占領	1848 三月革命 → メッテルニヒ亡命 1848 フランクフルト国民議会 ～49 〔大ドイツ主義〕の対立 〔小ドイツ主義〕 →小ドイツ主義の勝利 1853 クリミア戦争(～56) 〔プロイセン王 ヴィルヘルム1世 〕 宰相: ビスマルク 1864 デンマーク戦争 1866 普墺戦争→北ドイツ連邦 1867 オーストリア=ハンガリー二重帝国	1853 クリミア戦争(～56) →敗北
1871		イタリア統一 未回収のイタリア	1871 ドイツ帝国成立 ↳普仏戦争の勝利による 皇帝: ヴィルヘルム1世 鉄血宰相ビスマルク 1871～80 文化闘争 1878 社会主義者鎮圧法 1878 ベルリン会議 社会保障諸法 1882 三国同盟 成立(独墺伊) 1884 ベルリン=コンゴ会議(～85) 1887 再保障条約(～90)	〔アレクサンドル2世〕 1855～1881 1861 農奴解放令 ポーランド反乱を機に反動化 ・ナロードニキ運動 ↳主体: 学生・知識人 ↳標語: “ヴ・ナロード” ↳ニヒリズム(虚無主義) ↳テロリズム 1877 露土戦争 →1878 ベルリン会議(条約) 1881 皇帝暗殺
	1889 パン=アメリカ会議 主催 《1890年代にフロンティア消滅》 《1890年代に帝国主義時代に》		〔ヴィルヘルム2世〕 1889～1918 1890 ビスマルク辞職、皇帝親政 「世界政策」 《1890年代に帝国主義時代に》	〔ニコライ2世〕 1894～1917 1891 露仏同盟 成立 1891 シベリア鉄道 起工

21 帝国主義の時代

	【イギリス】	【フランス】	【ドイツ】	【ロシア】	【アメリカ】
1870	○帝国主義政策へ移行 1875 スエズ運河株式会社社の買収 ゾイレムリー内閣(保守党) 1877 インド帝国の成立 1878 ベルリン会議でキプロス島獲得	< 1870 第三共和政 > 1871 ハリ=コミュニケーション 1875 第三共和国憲法制定 ○帝国主義政策の開始 軍部の台頭 1881 チュニジアを保護領に	< 1871 ドイツ帝国成立 > 1871~90 ビスマルク時代 1875 トリツ社会主義労働者党結成	< ロシア > ツァーリの専制政治 チロトニキの運動の挫折 1877 露土戦争 1878 サンスタテフアノ条約 →ベルリン条約 南進策の挫折	南北戦争後の資本主義の急激な発達
1880	1882 エジプトを軍事占領 1884 フエビテン協会の結成 1886 ベルマ併合 1887 (自治) 英植民地会議の発足 「栄光ある孤立」政策	1881 清仏戦争 1895 天津条約 1887 仏領インドシナ連邦の成立 1887~89 ツーランジュ事件 1889 第2インターナショナル成立	1882 三国同盟 資本主義の急速な発達 独占資本・金融資本の形成 1887 再保障条約を締結	1881 アレクサンデル2世暗殺 1881 力条約 【アレクサンデル3世】 在1881~94 反動政治 1887 再保障条約を締結	トラストの形成進む 1886 AFL(米労働総同盟) 結成 職能別組合 1889 パンアメリカ会議の開催 1890 シヤーマン(反トラスト)法
1890	1890 ケーナ植民地首相:セシル=ローズ 1894 8時間労働法制定 1895 ーレー連邦の成立	1891 露仏同盟 ロシアへの投資増大 1894~1906 トリフエス事件 1895 労働総同盟 サンデイカリズム	【ドイツ】 1890 社会民主党と改称 1898 海軍大拡張計画 イギリスとの建艦競争始まる 1898 中国で膠州湾を租借 1899 カロリン、マリアナ諸島の買収 1899 トルコよりバルカン半島の 敷設権を獲得 ベルリン条約の修正主義	1891 露仏同盟 フランス資本で資本主義の発達 1891 シベリア鉄道起工 【ニコライ2世】 在1894~1917	ロシアの消滅 世界一の工業国
1900	○アメリカ縦断政策 3C政策 ケーナタウアン カルカッタ 1898 フラジヨダ事件 1898 威海衛 新界を租借 1899~1902 南ア戦争(ブール戦争) 植民地相:ジョゼフ=チエンバレン	○アメリカ縦断政策 マダガスカル島を領有 1898 フラジヨダ事件 1899 中国で広州湾を租借	○3B政策 ベルリン イスタンブール(ビザンティオン) バグダード	1901 社会革命党結成 1902 ボリシエビキ(レーニン)と メンシエビキ(ツェリハーノフ) 1904~05 日露戦争 ロシア第一革命 1905 血の日曜日事件 1905 ポーツマス条約 極東進出挫折 1905 十月勅令(宣言) 1906 国会(ドゥマ)の開設 1907 英露協商	【セオドア=ローズヴェルト大統領】 ○カリブ海政策「租借外交」 1903 コンビテカからパナマを独立させ パナマ運河地帯を永久租借 1904 パナマ運河起工 1914開通
1910	1910 南アメリカ連邦の成立(自治領) 1911 議会法制定 下院の優越 1914 アイルランド自治法成立 1914 ユーゴスラビア保護国化	1911 第2次モロッコ事件 1912 モロッコを保護国化	1911 第2次モロッコ事件 ○パン=ゲルマン主義 バルカン半島で衝突	○パン=スラブ主義 バルカン同盟を結成させて支援	【ウイリソン大統領】 在1913~21 民主党 「新自由主義」 第一次世界大戦に参加

22中国の古典文明

(殷、周、秦、漢)

前5000	黄河文明	長江文明
新石器時代	アワ・キビの栽培、豚の飼育 前) 仰韶文化 (彩陶文化 彩文土器 後) 竜山文化 (黒陶文化 黒陶、灰陶)	稲作の成立 前) 河姆渡文化 後) 良渚文化
農耕牧畜の始まり		

夏?

前1600	殷	神権政治(祭政一致) [亀甲獣骨による占い → 甲骨文字(漢字の祖型) 王権が強大 → 大規模な墳墓、精巧な青銅製の祭器、武器	《農民》氏族社会 邑と呼ばれる村落
前11c	周	武王が殷の紂王を破り建国 渭水盆地からおこる 封建制(血縁関係を基礎) ★特徴 宗族、宗法★特徴 【土地制度】井田制 周王 → 諸侯 → 卿、大夫、士 土地が与えられ、軍役、貢納の義務	
	都: 鎡京		
	↓		
	都: 洛邑		
	(東周)	前770 春秋時代 犬戎に都を攻め落とされ洛邑に遷都 [周王室は弱体化し、支配は名目的となる(東周) 諸侯が各地に自立し、互いに実力で抗争する乱世となる → 春秋の五覇 覇者が出て、尊王攘夷を旗印に会盟(同盟)を結ぶ	具貨 (社会・経済) 鉄製農具、牛耕の普及 ↓ 商工業の発達 → 青銅貨幣 (刀銭、布銭、円銭)
	前403 戦国時代	7大諸侯が対立・抗争(王の称号を使用) → 戦国の七雄(秦、楚、斉、燕、韓、魏、趙) ★位置確認 富国強兵策を推進し、人材登用 → 思想界の活況 諸子百家 秦では孝公のもと、商鞅の改革が成功し強大化 ★諸派とその思想内容	
前221	秦	始皇帝 秦王 政が他の6国を滅ぼし全国を統一。宰相に法家の李悝《外征》 郡県制を全国的に施行(官吏を派遣して統治)特徴 [匈奴攻撃に蒙恬を派遣 華南を制圧し南海郡など 3郡を設置	《モンゴル高原》 スキタイ文化の影響を受け、モンゴル高原に遊牧騎馬民族の匈奴が台頭
	都: 咸陽	《統一策》 ・貨幣(半両銭)、度量衡、文字(篆書)の統一 ・思想弾圧: 焚書坑儒 ・法家思想の採用 《土木事業》万里の長城、巨大な陵墓(驪山、兵馬俑坑) 前206 滅亡 農民反乱: 陳勝呉広の乱「王侯将相いざくんぞ種あらんや」 → 群雄割拠 → 滅亡	

劉邦と項羽の抗争

前202	前漢	高祖 (劉邦) ◆郡国制の採用 [郡県制…関中、西北部 封建制…遠隔地	漢は匈奴に敗れて ← 匈奴の全盛期 (冒頓単于のとき) 対外的に消極策を取る
	都: 長安	景帝 前154 諸侯の反乱である、呉楚七国の乱を鎮圧	
		武帝 ◆実質的に郡県制による中央集権体制の確立 《内政》 【儒学の採用】 董仲舒の献策により儒学の官学化 【官吏任用制度】 郷举里選 → 五経博士を設置 【経済政策】①塩、鉄、酒の専売制度 ②均輸・平準などの経済政策★特徴 ③貨幣: 五銖銭	《外征》 対匈奴に積極策 西: 張騫を大月氏国に派遣 大宛(フェルガナ)より汗血馬 北: 衛青、霍去病の遠征 東: 朝鮮に楽浪郡以下4郡設置 南: ヴェトナム北部を支配下に におき日南郡など9郡設置
後8	新	王莽 外戚による王位の篡奪 周の時代の制度を復活しようと実情に合わない政治改革 → 混乱	
後25	後漢	光武帝 豪族の支持を得て全国を統一し漢を再興 ・大土地所有が発達し、豪族勢力の成長 ・農民の困窮 → 太平道(張角)などが発達 166~169 党錮の弊: 宦官による官僚・儒者の弾圧 184~ 黄巾の乱 太平道の張角が指導する農民反乱 漢の統一支配は崩壊し、群雄割拠の混乱状態となる	《対外関係》 消極策 東: 倭の奴国の使者に金印を与えた 西: 班固が西域都護として西域経営 部下の甘英をローマに派遣 西: 大秦王安敦の使者、日南郡に至る (マルクス=アウレリウス=アントニヌス)
後220			

23魏晋南北朝・隋唐

〔制度〕

《時代の特徴》		①地方では豪族が勢力をふるう	②中央では門閥貴族が権勢をふるう	貴族社会	(2)政治的分裂	①強力な王朝生まれず、分裂と交代	②北方民族の侵入と支配を許す
220	三国時代	華北) 魏 (曹丕) 都:洛陽	208 赤壁の戦い 曹操が敗れ、三国鼎立が決定的となる	220 魏の曹丕(文帝)が帝位につき、後漢王朝滅亡	239 魏に邪馬台国女王卑弥呼の使者来『魏志倭人伝』	263 魏が蜀を滅ぼし併合	【魏の官吏登用法】 九品中正法 ★豪族の中央政界進出進む 「上品に寒門なく下品の勢族なし」
		江南) 呉 (孫権) 都:建業					【魏の土地制度】 屯田制 流民や兵士に強敵的に耕作地を割り当てて耕作させる
		四川) 蜀 (劉備) 都:成都					
280	西晋	都:洛陽	265 司馬炎が魏の帝位を奪い建国	280 呉を滅ぼし、中国統一	290~306 八王の乱	311~316 永嘉の乱	【西晋の土地制度】 占田・課田制
316	五胡十六国時代	華北) 五胡十六国の抗争 匈奴・羯・鮮卑・氐・羌	383 淝水の戦い: 前秦の苻堅が東晋に敗れ、統一に失敗 これにより南北の分立が決定的となる				
		江南) 東晋の支配 都:建康	建国者:司馬睿	華北からの農民・豪族の移住 →	江南の開発が進む		
439	南北朝時代	華北) 北朝… 北魏 → 東魏 → 北齊 → 589 (鮮卑族の拓跋氏) → 西魏 → 北周 → 隋の統一 漢化政策 都:平城→洛陽					【北魏の土地制度】 均田制 (孝文帝が制定) 【北魏の村落制】 三長制 【西魏の兵制度】 府兵制
		江南) 南朝… 東晋 → 宋 → 齊 → 梁 → 陳 六朝文化 貴族社会					昭明太子『文選』

581	隋	文帝	581 北周の外戚 楊堅が建国 589 南朝の陳朝を征服し中国を統一 中央集権的諸制度を制定(律令体制の樹立)	文帝	581 北周の外戚 楊堅が建国 589 南朝の陳朝を征服し中国を統一 中央集権的諸制度を制定(律令体制の樹立)	律令体制	【法律】 律令の制定 【土地制度】 均田制 【税制】 租庸調制 【兵制】 府兵制 【官吏登用制】 科挙(選挙)
		煬帝	大土木事業や積極的な外征を行う 大運河の完成 華北と江南を結ぶ大動脈 3回に及ぶ高句麗遠征の失敗	煬帝	大土木事業や積極的な外征を行う 大運河の完成 華北と江南を結ぶ大動脈 3回に及ぶ高句麗遠征の失敗	《北方民族》 トルコ系の突厥の台頭 582 隋はこれを破り、東突厥を服属させる	
		都 大興城	滅亡 大農民反乱			607 日本より遣隋使 小野妹子	
618							

618	唐	高祖	唐公 李淵 が建国	太宗	李世民 (位626~649) “貞観の治”と称される繁栄 630 東突厥を服属させる	高宗	領土最大 657 西突厥を服属させる 《周辺諸国支配》 660 百済を滅ぼす 663 白村江の戦い 668 高句麗を滅ぼす	玄宗	(位712~756) “開元の治”と称される繁栄 内陸交易にイラン系ソグド人活躍 南海貿易にアラブ人活躍 広州に市舶司を置く 751 タラス河畔の戦い: 対アッバース朝、製紙法の西伝	755~763	安史の乱 (安祿山・史思明) 北方民族ウイグルの援助で乱を鎮圧 → 唐王朝の権威失墜 → 律令体制の解体 内地にも節度使が置かれる	徳宗	780 両税法の施行 (資産・土地所有高に応じた課税) 宰相 楊炎の献策	907	907 朱全忠により滅亡 → 後梁を建国	《中央集権的な統治制度の整備》 【法律】 律…刑法 令…行政法 格…補足 式…細則 【官制】 三省 { 中書省 詔勅の立案 門下省 詔勅の審議 尚書省 詔勅を施行一六部 監察 御史台 【地方】 州県制 【官吏任用法】 科挙(選挙) 学科試験 《全国の土地と人民を掌握し財政と軍事力が増大》 【土地制度】 均田制 ★北魏との相違 【税制】 租庸調制 府兵制 均田制の動揺 均田農民の困窮・没落 節度使の設置 辺境防備 【兵制】 府兵制→募兵制 律令体制の崩壊 【税制】 両税法に変わる 【土地制度】 大土地所有を公認 → 荘園の成長
		武韋の禍	則天武后 周を建国(690~705) 710 韋后が政権樹立を図る													
		都 長安														

24宋・元

755 安史の乱 唐王朝の衰退
 (~763) 節度使(藩鎮)の分立
 875 黄巢の乱 (~884)
 907 朱全忠は唐を滅ぼし後梁を建国

唐末五代の社会変化

〔モンゴル高原〕

907 五代十国

- ①後梁
- ②後唐
- ③後晋
- ④後漢
- ⑤後周

華北…5王朝の交代
 地方…10国の分立 武断政治

①大土地所有の発達
 荘園、小作人(佃戸)
 ②支配層の交代
 旧来の貴族が没落
 新興の地主層(形勢戸)台頭

916 遼

916 耶律阿保機が建国
 モンゴル系契丹族
 926 渤海を征服
 936 後晋より燕雲十六州を獲得して支配

◆二重統治体制
 北面官 遊牧民は部族制で統治
 南面官 漢民族は州県制で統治

1004 澶淵の盟 宋を兄、遼を弟とし、宋が遼に毎多額の銀や絹を送る

《文化》
 契丹文字
 仏教を受容

宋と金の挾撃を受け滅亡
 耶律大石、西遼建国

〔西域〕

1038 西夏

李元昊により建国
 チベット系タングート族(党項)

1044 宋との和議
 西域を支配 東西交易をおさえて繁栄

《文化》
 西夏文字
 仏典の翻訳

1127 チングス=ハンによる征服

960 太祖 北宋

960 後周の節度使 趙匡胤が建国

《社会》 佃戸制の進展
 地主:形勢戸、官戸
 小作人:佃戸

◆文治主義
 ①文官中心の政治
 ②科挙整備(殿試を新設)
 ③節度使にも文官をあてて武人を抑える

↓
 弱点
 ①軍事力の弱体化
 ②財政悪化

1004 澶淵の盟 宋を兄、遼を弟とし、宋が遼に毎多額の銀や絹を送る
 1044 西夏と和約

神宗 王安石の改革 (11世紀後半)

富国策 青苗法、市易法、均輸法、募役法
 新法 強兵策 保甲法、保馬法

↓
 地主・富商に打撃
 司馬光らの旧法党の反対で挫折
 以後、新法党と旧法党の党争激化
 富国強兵の実はあがらず

《経済》 商工業、都市の繁栄
 地方に鎮、草市が発達
 陶磁器の産地:景德鎮
 同業組合 ①行(商人)
 ②作(手工業者)
 海外貿易:市舶司が管理
 港市:広州、泉州、明州
 紙幣:交子 銅銭

1126 靖康の変 金により開封が陥落
 ~1127 徽宗・欽宗などがとらえられる

1115 完顔阿骨打が建国
 ツングース系
 女真族

1127 高宗 南宋

欽宗の弟
 江南に逃れて宋を再興

主戦派の岳飛と和平派の秦檜の対立

1142 金と和議が成立し、南宋は江南の支配確立
 金との国境を淮河とする
 金に臣下の礼をとり毎年、銀や絹を送る

《経済》 江南が経済の中心 紙幣:会子
 江浙熟すれば天下たる」
 占城稲の普及
 圍田の造営(長江下流域)

1276 1279 フビライの元軍に敗れ滅亡
 崖山の戦い:南宋の残存勢力滅亡

1234 金

◆二重統治体制
 遊牧社会は猛安・謀克制
 漢民族は州県制で支配

《経済》 紙幣:交鈔
 《文化》
 女真文字
 全真教

オゴタイ=ハンに
 征服される

チングス=ハン
 1206 クルタイでハン位につく
 1220 ホラズムを征服

オゴタイ=ハン 都:カラコルム
 1236 バトゥによるヨーロッパ西征 開始
 → 1241 ワールシュタットの戦い

モンケ=ハン
 1258 フラグがアッバース朝を征服

1271 元

◆モンゴル人第一主義 ★統治策の特徴

- モンゴル人 上級官職、地方長官を独占
- 色目人 財政等を担当
- 漢人 華北の漢民族、女真族
- 南人 江南の漢民族

科挙…一時停止
 公用語…モンゴル語
 公文書…モンゴル文字
 パスバ文字

塩・鉄・酒の専売制度
 紙幣:交鈔の専用策
 交通路の整備
 駅伝制(ジャムチ)の整備(牌符の発行)
 「新運河」の開通(大運河の改修)
 沿岸航路の開通 長江下流~山東半島~大都

1351~66 紅巾の乱(白蓮教徒の乱:大農民反乱)

1368 朱元璋が明を建国、大都を攻め落としモンゴル人を北方に撃つ→北元

ユーラシアにおけるモンゴル人の政権

- 〔ロシア〕 キプチャク=ハン国
 都:サライ
 バトゥが建国
- 〔西アジア〕 イル=ハン国
 都:タブリーズ
 フラグが建国
- 〔中央アジア〕 チャガタイ=ハン国
 都:アルマリク

1264 都をカラコルムより大都(北京)に遷す
 1271 国号を元と改める、中国風国家へ
 1274 文永の役 1281 弘安の役
 雲南の大理国を征服
 ビルマを支配

1260 大ハンに即位 → ハン位継承争い
 1266~1301 ハイドウの乱

1351 紅巾の乱(白蓮教徒の乱):大農民反乱

1368

都
南京

洪武帝

(位1368~98)

1368 朱元璋が南京を都に建国
1368 大都を陥落させ、元を滅ぼす
江南に都した初めての統一王朝
漢民族王朝の復興

君主独裁体制の強化

【官制】 中書省を廃し、六部を皇帝直属
【法典】 「明律」「明令」の制定
【兵制】 衛所制
・戸籍の再編成 軍戸、民戸
・一世一元の制をはじめ

《農民統治》
【土地台帳】 魚鱗図冊
【戸籍・租税台帳】 賦役黄冊
【村落の行政】 里甲制
【民衆教化】 六諭の制定

都
北京

永楽帝

(位1402~24)

1399~1402 靖難の変で建文帝にかわり帝位につく
《内政》 北京へ遷都
朱子学の官学化
内閣大学士をおく(皇帝補佐)

《大編纂事業》
『四書大全』
『五経大全』
『性理大全』
『永楽大典』

明

北虜南倭
により衰退

15世紀後半 オイラトが強大化し侵入(エセン=ハンによる統一)
1449 土木の変で正統帝(英宗)が囚われる
→ 万里の長城の修築(現存)

《社会》 佃戸制(前代から引き継ぎ)
城居地主(不在地主)の発達
佃戸の抗租運動の高揚
1448~49 鄧茂七の乱
東南アジアに移住した南洋華僑

16世紀 タタールが強勢となる
アルタン=ハンに率いられて侵入

《経済》

[沿岸部] 倭寇の襲撃 海禁政策をとる

ポルトガル人の来航

万曆帝

内閣大学士の張居正の改革
【税制改革】1578 一条鞭法の制定 ★特色
1592/1597 豊臣秀吉による朝鮮侵入

1517 マカオに初めて来航
1552 フランシスコ=ザビエル
広東で客死
1557 マカオの居住権を得る
1583 宣教師マテオ=リッチ来る

『湖広熟すれば天下足る』長江中流
長江下流に手工業発達
メキシコ銀、日本銀の流入
商業の全国的展開
山西商人、徽州(新安)商人
同郷、同業やの、会館・公所
都市に、商人や郷紳など富裕層集ま

衰退 ・党争の激化 東林党と非東林党

ヌルハチ

1616 女真族(満州族)を統一し、後金を建国
・八旗の兵制をはじめ
1619 サルホの戦いで明軍を破る

ホンタイジ

1636 国号を清とする
・内モンゴル(チャハル)、李氏朝鮮を服属させる

1644

順治帝

1644 明の武将の呉三桂の力をかりて北京に入り中国統治をはじめ

清の全盛 3代130年あまり

康熙帝

(位1661~1722)

1661 全国の統一完成 《対外関係》
1661~83 鄭成功一族の反乱を鎮圧(台湾) 1689 ネルチンスク条約
1673~81 三藩の乱鎮圧 1696 外モンゴル平定、↑★背景
1704~ 典礼問題おこる
1717 地丁銀制の開始 1720 チベットを支配

【官制】 六部は皇帝直属、内閣大学士が補佐
軍機処 軍事、行政の最高機関
理藩院 藩部の統治
【兵制】 八旗 主力軍、旗人に旗地を支給
満州八旗、蒙古八旗、漢人八旗
緑営 漢人の軍で八旗を補う
【村落】 保甲制
【税制】 地丁銀 ★特色

清

雍正帝

(位1722~1735)

1723 キリスト教の布教禁止
1732 軍機処の設置 1727 キャフタ城約(モンゴル国境)

巧妙な漢民族支配
【懷柔策】 重要官職 満漢偶数官制
科挙の踏襲
藩部統治にラマ教の利用
国家的大編纂事業
【威圧策】 辮髪(髪)の強制
文字の獄や禁書令

都
北京

乾隆帝

(位1735~1795)

1758 ジュンガル平定
・藩部統治の理藩院を整備 1759 東トルキスタン(回部)平定
1757 貿易を広東一港に限定
1793 英使節マカートニー来る

《社会経済》 明代とほぼ同じ

領土は最大領域

①直轄地 中国内地、東北地方、台湾
②藩部
③属国(清を宗主国とする)

衰退 1796~1805 白蓮教徒の乱

1912

1912 辛亥革命後に滅亡 :宣統帝(溥儀)が退位

26列強の中国侵略と民族運動

【列強の中国侵略】	【清朝・支配層】	【民衆・民族運動】
<p>1800</p> <p>イギリス 18世紀には中国貿易を独占的支配片貿易 ↓ 自由貿易要求 1793 マカートニー 失敗 1816 アマースト ↓ 1834 ネーピア領事 三角貿易 1833 東インド会社中国貿易独占権廃止</p> <p>1840 アヘン戦争</p> <p>1842 南京条約 ①香港割譲と賠償金 ②5港開港(上海など) ③公行の廃止 ④対等の国交と領事駐在</p> <p>仏と黄埔条約 米と望厦条約</p> <p>1843 虎門寨追加条約 関税自主権の喪失 治外法権の承認</p>	<p>・満州民族の征服王朝(専制政治) ・漢人地主、漢人官僚(封建社会) 1720 公行が外国貿易独占 貿易制限策 1757 広州1港のみ開港</p> <p>1838 欽差大臣に林則徐が任命される 広州にてアヘン取り締まり強化</p>	<p>1796 白蓮教徒の乱 :大規模な農民反乱 ~1804</p>
<p>1850</p> <p>1856 アロー戦争 英・仏VS清朝 1858 アイグン条約 アムール川以北割譲 1858 天津条約(英・仏) ①キリスト教布教公認 ②外交官の北京駐在 ③アヘン輸入公認</p> <p>1860 北京条約 ①天津開港 ②九竜半島を英へ割譲 ③ロシアへ沿海州割譲</p>	<p>郷勇 { 曾国藩の湘軍 李鴻章の淮軍 英)ウオード創設の常勝軍</p>	<p>1851 太平天国の乱 洪秀全がキリスト教的な拝上帝会を組織 広西省で挙兵 南京を占領し、天京とする ・“滅満興漢”のスローガン ・天朝田畝制度(実施されず) ・辮髪廃止、纏足は禁止</p>
<p>1881 伊り条約 :ロシアと伊り地方の国境線画定 1884~85 清仏戦争 :清朝敗北 (ヴェトナムの宗主権放棄)</p> <p>1894 日清戦争 1894 甲午農民戦争を機に開始</p> <p>1895 下関条約 ①日本へ台湾・遼東半島を割譲 ②多額の賠償金 [影響]清朝の弱体を露呈、列強の侵略激化</p>	<p>1861 洋務運動 同治の中興 同治帝の時代 曾国藩、李鴻章、左宗棠ら漢人官僚が中心 “中体西用”がスローガン 1861 総理各国事務衙門 設立</p> <p>洋務運動に対する失望</p> <p>洋務運動の失敗</p>	<p>1864</p> <p>1894 興中会 結成 :孫文がハワイで結成</p>
<p>1895 三国干渉:露・仏・独による圧力 ↓ 日本は遼東半島を清朝へ返還 列強による中国分割 1899 アメリカの「門戸開放宣言」</p>	<p>1898 戊戌の変法 日本を範とした 変法自強運動 光緒帝による改革 戊戌の政変により挫折:西太后ら保守派の クーデタ</p>	<p>仇教運動の激化:反キリスト教</p>
<p>列強は、義和団鎮圧のために出兵</p>	<p>清朝は義和団を援助⇒</p>	<p>1900 義和団事件</p>
<p>1902 日英同盟成立</p>		<p>“扶清滅洋”のスローガン 1901 北京議定書</p>
<p>1904 日露戦争 1905 ポーツマス条約</p>	<p>1905 科挙廃止 1908 憲法大綱の発表 :国会開設を公約 1911 軍機処廃止→内閣設置</p>	<p>1905 中国同盟会 :孫文が東京で結成 孫文の三民主義:民族・民権・民生</p>
	<p>1912 中華民国 アジア初の共和国 臨時大統領:孫文 1912 清朝滅亡 宣統帝溥儀が退位</p>	<p>1911 辛亥革命 鉄道国有化に反対する武昌蜂起 四川暴動</p>

29 第一次世界大戦とロシア革命

ロシア・ロシア	【連合国】	【同盟国】	【帝政ロシア】
<p>8.23 日本が独に宣戦布告 (日英同盟) 膠州湾・青島を占領 南洋諸島占領 1 日本が中国に対し 二十一か条の要求</p> <p>【英・アラブ人】 フサイン・ペクワホン協定 アラブ人の独立を約束</p> <p>【英・仏・露】 サイクス・ピコ協定 秘密に分割協定</p>	<p>第一次世界大戦 6.28 サライエヴォ事件</p> <p>8.4 イギリスがドイツに宣戦布告</p> <p>8.3 独がベルギーの中立を犯し侵</p> <p>10 トルコが参戦</p> <p>9 ヴルスの戦い</p> <p>【西部戦線の膠着】</p> <p>5 イタリアが参戦 三国同盟破棄</p> <p>10 ツルガリアが参戦</p> <p>5 ルジタニア号を独潜水艦が撃沈</p> <p>11 ロシア十月(十一月)革命 →ソヴェト政権「平和に関する布告」</p> <p>11 ヴェルダンが阻止</p> <p>【独軍、死守】</p> <p>6~11 ソムムの戦い</p> <p>【独、潜水艦依存へ】</p> <p>5~6 ユトランド半島沖海戦 → 独、潜水艦依存へ</p> <p>【独軍、死守】</p> <p>2~12 ゼエルダン要塞 攻防戦</p> <p>【独、潜水艦依存へ】</p> <p>5~6 ユトランド半島沖海戦 → 独、潜水艦依存へ</p> <p>11 ロシア十月(十一月)革命 →ソヴェト政権「平和に関する布告」</p> <p>1 ヴェルダンが阻止</p> <p>【独軍、死守】</p> <p>6~11 ソムムの戦い</p> <p>【独、潜水艦依存へ】</p> <p>5~6 ユトランド半島沖海戦 → 独、潜水艦依存へ</p>	<p>7.28 塙がセルビアに宣戦</p> <p>8.1 独がロシア・フランスに宣戦</p> <p>8.3 独がベルギーの中立を犯し侵</p> <p>10 トルコが参戦</p> <p>9 ヴルスの戦い</p> <p>【西部戦線の膠着】</p> <p>5 イタリアが参戦 三国同盟破棄</p> <p>10 ツルガリアが参戦</p> <p>5 ルジタニア号を独潜水艦が撃沈</p> <p>11 ロシア十月(十一月)革命 →ソヴェト政権「平和に関する布告」</p> <p>11 ヴェルダンが阻止</p> <p>【独軍、死守】</p> <p>6~11 ソムムの戦い</p> <p>【独、潜水艦依存へ】</p> <p>5~6 ユトランド半島沖海戦 → 独、潜水艦依存へ</p> <p>11 ロシア十月(十一月)革命 →ソヴェト政権「平和に関する布告」</p> <p>1 ヴェルダンが阻止</p> <p>【独軍、死守】</p> <p>6~11 ソムムの戦い</p> <p>【独、潜水艦依存へ】</p> <p>5~6 ユトランド半島沖海戦 → 独、潜水艦依存へ</p>	<p>【皇帝ニコライ2世】ロシア朝</p> <p>8 タンネンベルクの戦い ドイツ軍に大敗</p> <p>【東部戦線の膠着】</p> <p>臨時政府 帝政を倒す</p> <p>3 立憲民主党のロシア人公内閣 戦争継続・改革は不明確</p> <p>7 社会革命党のケルンスキ内閣 ボリシェビキと対決</p> <p>十月革命</p> <p>臨時政府倒れる</p> <p>憲法制定会議 社会革命党多数</p> <p>1 憲法制定議会を強制解散</p> <p>3 ボリシェビキがロシア共産党に改名</p> <p>3 エムスクラ遷都</p> <p>3 フレスト=リトフスク条約</p> <p>3 対独単独講和</p> <p>4 帝国主義諸国の反革命干渉戦争開始</p> <p>8 日・米などのシベリア出兵開始 → ← 赤軍:労働者・農民中心の革命軍</p> <p>対ソ干渉戦争 (1918~1922)</p> <p>3 コミンテルンの結成 世界革命をめざす</p> <p>4~10 ソヴェト=ポーランド戦争 国内の反革命運動の動きは、1920年までに鎮圧</p> <p>【改革派】 立憲民主党(カデット) ゾルゾロフ政党、立憲君主制</p> <p>【革命派】 社会革命党 ナロードニキの流れを くむ革命政党 漸進的ですが民主主義革命 ボリシェビキレーニン指導 戦争反対、武装革命を主張</p> <p>労働者・兵士 ソヴェト</p> <p>3 ソヴェト結成 臨時政府支持 社会革命党・ボリシェビキ多数派</p> <p>4 レーニン帰国「4月テーゼ」 全権力をソヴェトにと主張 ボリシェビキによる7月蜂起失敗 ボリシェビキが多数派となる</p> <p>11 ソヴェトの武装蜂起で政権奪取 「土地に関する布告」 「平和に関する布告」 議長:レーニン</p> <p>人民委員会 外務委員:トロツキー 民族委員:スターリン</p> <p>戦時共産主義 工業等全産業の国有化 穀物等の強制徴発 個人取引の禁止、現物支給 生産意欲の減退、農工業生産の縮小 →社会不安の増大</p>

29 第一次世界大戦とロシア革命

30 戦間期(1)

第一次世界大戦		ドイツ革命	1917.3 ロシア三月革命 1917.11 ロシア十月革命
1918	.11 大戦の終結	.11 キール軍港の水兵反乱 →ドイツ共和国臨時政府の成立 ★首班 政権党 休戦条約	1918.3 ブレスト=リトフスク条約
1919	ヴェルサイユ体制の成立 .1 バリ講和会議始まる ★性格 ヴェルサイユ条約締結 対独 サン=ジェルマン条約 対奥 ヌイイ条約 対ブルガリア	.1 スパルタクス団の蜂起 ★指導者	1918~20 戦時共産主義 .8 日米のシベリア出兵開始 列強の干渉戦争、反革命内戦激化
1920	トリアノン条約 対ハンガリー セーブル条約 対トルコ 1920 国際連盟の成立 ★問題点	国際紛争と戦後危機 18~20 対ソ干渉戦争 19~23 ギリシア=トルコ戦争 19~ フィウメを巡るイタリア=ユーゴ の紛争	.3 コミンテルンの結成 ★目的 (第3インターナショナル) 20~21 ソヴィエト=ポーランド戦争
1921	ワシントン体制 .11 ワシントン会議 ★ねらい 四か国条約 太平洋地域の領土 九か国条約 中国に関するもの 海軍軍縮条約	.4 ロンドン会議で賠償金額の決定	1921~28 新経済政策(NEP) ★特徴
1922			.4 ラバロ条約 :独がソ連を承認
1923	.7 ローザンヌ条約 :トルコ共和国独立 国際協調の進展と相対的安定	.1 ルール占領 :フランス・ベルギーによる ドイツの消極的抵抗、大インフレ	.12 ソヴィエト社会主義共和国連邦 ロシア・ベラルーシ 成立 ウクライナ・ザカフカス 24 英・伊・仏のソ連承認
1924	.8 ドーズ案 ドイツの賠償 期限延長	(賠償問題) ドーズ案成立	.1 レーニンの死 社会主義論争 トロツキー:世界革命論 スターリン:一国社会主義論
1925	.12 ロカルノ条約 ★内容、意義 ラインラントの現状維持と 相互不可侵	.7 ルールから撤兵	.1 トロツキー失脚
1926	.9 ドイツの国際連盟加入		国民経済の回復
1927	.6 ジュネーヴ軍縮会議(失敗)		スターリン時代
1928	.8 不戦条約 アメリカ:ケロッグ フランス:ブリアン		1928~32 第1次五カ年計画 ・国民経済の社会主義的改造 ・重工業と農業の集団化
1929	.6 ヤング案 ドイツの賠償額削減	世界恐慌 1929 .10 暗黒の木曜日	29.1 トロツキーの国外追放
1930	.4 ロンドン海軍軍縮条約 ★内容 米:英:日=10:10:7	アメリカに始まり全世界に 恐慌広がる	30 スターリンの独裁(~53)
1931	ファシズム国家の台頭 伊・独・日 .9 満州事変	対応 .6 フーヴァー=モラトリアム ★内容	
1932	.3 満州国建国 .5 5.15事件 .7 ナチス、第一党に進出	.7 オタワ会議 イギリスのブロック経済	
1933	.1 ヒトラー内閣の成立 .3 日本、国際連盟脱退通告 .10 独、国際連盟脱退	米のニューディール政策 F=ローズヴェルト大統領 ★内容	1933~37 第2次五カ年計画 社会主義計画経済の完成 33 アメリカのソ連承認
1934	.12 日本、海軍軍備制限条約破棄	反ファシズム .4 ストレーザ戦線(英仏伊) .8 コミンテルン第7回大会決議 「人民戦線」方式	34 国際連盟に加盟 (国際社会への復帰) 34 大粛清はじまる(スターリン独裁)
1935	.3 独の再軍備宣言 .10 イタリアのエチオピア侵入	.2 スペイン人民戦線内閣成立 .6 フランス人民戦線内閣成立 .7 スペイン内乱(~39)	35 仏ソ相互援助条約
1936	.10 ラインラント進駐(ロカルノ条約破棄) .10 ベルリン=ローマ枢軸結成 .11 日独防共協定成立	.9 英仏の不干涉政策 ★背景 中国で第二次国共合作成立	36 スターリン憲法の制定
1937	スペイン内乱への独伊の介入 .7 盧溝橋事件 .10 日独伊三国防共協定	英仏の対独宥和政策	
1938	.3 オーストリア併合 .9 ミュンヘン会談 ★参加者、内容	.11 フランスの人民戦線内閣崩壊	38 第3次五カ年計画
1939	.3 チェコスロバキアの解体 .5 日独伊三国同盟 .8 独ソ不可侵条約 .9 ポーランド侵攻	.3 スペイン人民戦線敗退	.3 ノモンハン事件 .8 独ソ不可侵条約 .9 ポーランド・バルト三国へ侵入

第二次世界大戦勃発

30 戦間期(2)

	<米・英・仏>	ドイツ革命 <ドイツ>	<イタリア>
1918	18.1 ウィルソン米大統領「十四か条」発表 英 第4回選挙法の改正 ★内容	11 キール軍港の水兵反乱 11 帝政崩壊、共和国政府の成立 休戦条約 ★首班、社会民主党	第一次大戦では連合側で戦勝国 「未回収のイタリア」の獲得 フィウメの未併合への不満
1919	パリ講和会議(代表) 米:ウィルソン 仏:クレマンソー 英:ロイド=ジョージ 戦後アメリカは世界一の債権国となり政財的繁栄 英仏は経済困難に苦しみ、社会主義政党躍進	1 スパルタクス団の反乱 ★★指導者 1919 ワイマール共和国の成立 ワイマール憲法の制定 ★特色 初代大統領エーベルト(社会民主党)	戦後の社会不安 3 ムッソリーニら「ファシスト党」結成 ★背景 戦後の国民経済の破綻 社会主義運動の高揚 ストヤ工場占拠 ↓ 農民の土地占拠 資本家、地主、軍人の危機感
1920		3 国民社会主義ドイツ労働者党(ナチ党)と改称 3 カップー揆: ベルリンでおこった右翼 反動分子によるクーデタ	
1921	米 ハーディング大統領(共和党) .11 ワシントン会議(~22.2)	7 ヒトラーがナチ党首となる	1 イタリア共産党結成
1922	英 自治領アイルランド自由国の成立	4 ラパロ条約(ソ連を承認) 賠償支払い不能へ 1 仏・ベルギーのルール占領	10 ローマ進軍により政権獲得
1923	仏 1923 ルール出兵	消極的抵抗 大インフレ 経済麻痺 11 ミュンヘン一揆 11 レンデンマルク発行 首相: シュレーゼンマ	
1924	英 第1次マクドナルド内閣(労働党)成立 仏 左派連合内閣 外相ブリアン 国際協調へ		1924 フィウメ併合
1925		7 ドーズ案(賠償問題) ヒンデンブルク大統領(~34) 7 ルール撤兵 シュレーゼンマ外交 12 ロカルノ条約 (23~29 外相)	一党独裁体制を確立
1926	英 イギリス帝国議会 イギリス連邦の成立 仏 ポワンカレ挙国一致内閣(~29)	9 国際連盟加盟(常任理事国)	アルバニアを事実上の保護国に
1927		経済復興 社会安定	
1928	英 第5回選挙法改正 男女平等普通選挙制	6 ヤング案	9 ファシスト大評議会を国家の 最高機関に
1929	英 第2次マクドナルド内閣 労働党が第一党 米 暗黒の木曜日 株価の大暴落		1929 ラテラン条約 ★背景 ローマ教皇庁との和解 ヴァチカン市国の成立
1930	恐慌の波及		
1931	英 第3次マクドナルド内閣 挙国一致内閣 金本位制停止 ウェストミンスター憲章	恐慌の波及 金融恐慌広がる 左翼:共産党の進出 右翼:ナチスの躍進	
1932	英 オタワ会議 ブロック経済政策 スターリング=ブロック	6 ローザンヌ会議(賠償の最終決定) 7 ナチス第1党に進出 ★背景	恐慌の波及 国民経済の悪化
1933	米 ニューディール政策 ★内容・性格 大統領 フランクリン=ローズヴェルト 米 ソ連を承認	1 ヒトラー内閣成立 2 国会議事堂放火事件 3 全権委任法成立	
1934	米 フィリピンでの10年後の独立約束 中南米での善隣外交政策	4 ユダヤ人排斥始まる 10 国際連盟脱退 8 ヒンデンブルク大統領死亡	
1935	仏 フランス人民戦線の成立 4 ストレザー戦線(英仏伊) 英 英独海軍協定...宥和政策	ヒトラー、総統に就任 1 ザール併合 3 再軍備宣言 ロカルノ条約破棄	4 ストレザー戦線:英仏と組む 10 エチオピアに侵入→翌年併合 国際連盟による経済制裁を受ける
1936	仏 人民戦線内閣の成立 首相:ブルム	6 英独海軍協定 英の宥和政策 3 スペイン内乱に介入 10 ベルリン=ローマ枢軸結成	7 スペイン内乱に介入 10 ベルリン=ローマ枢軸の結成
1937	英 エール共和国の成立	11 日独防共協定の成立 11 日独伊三国防共協定の成立	11 日独伊三国防共協定の成立 12 国際連盟を脱退
1938	仏 フランス人民戦線の崩壊 英 ミュンヘン会談 英首相チェンバレンの宥和政策	3 オーストリア併合 9 ミュンヘン会談 ズデーテン問題	
1939	英仏 39.9 ドイツに宣戦布告	3 チェコスロバキアを解体 8 独ソ不可侵条約 9 ポーランド侵攻	4 アルバニア併合 1940 ドイツ側につき参戦

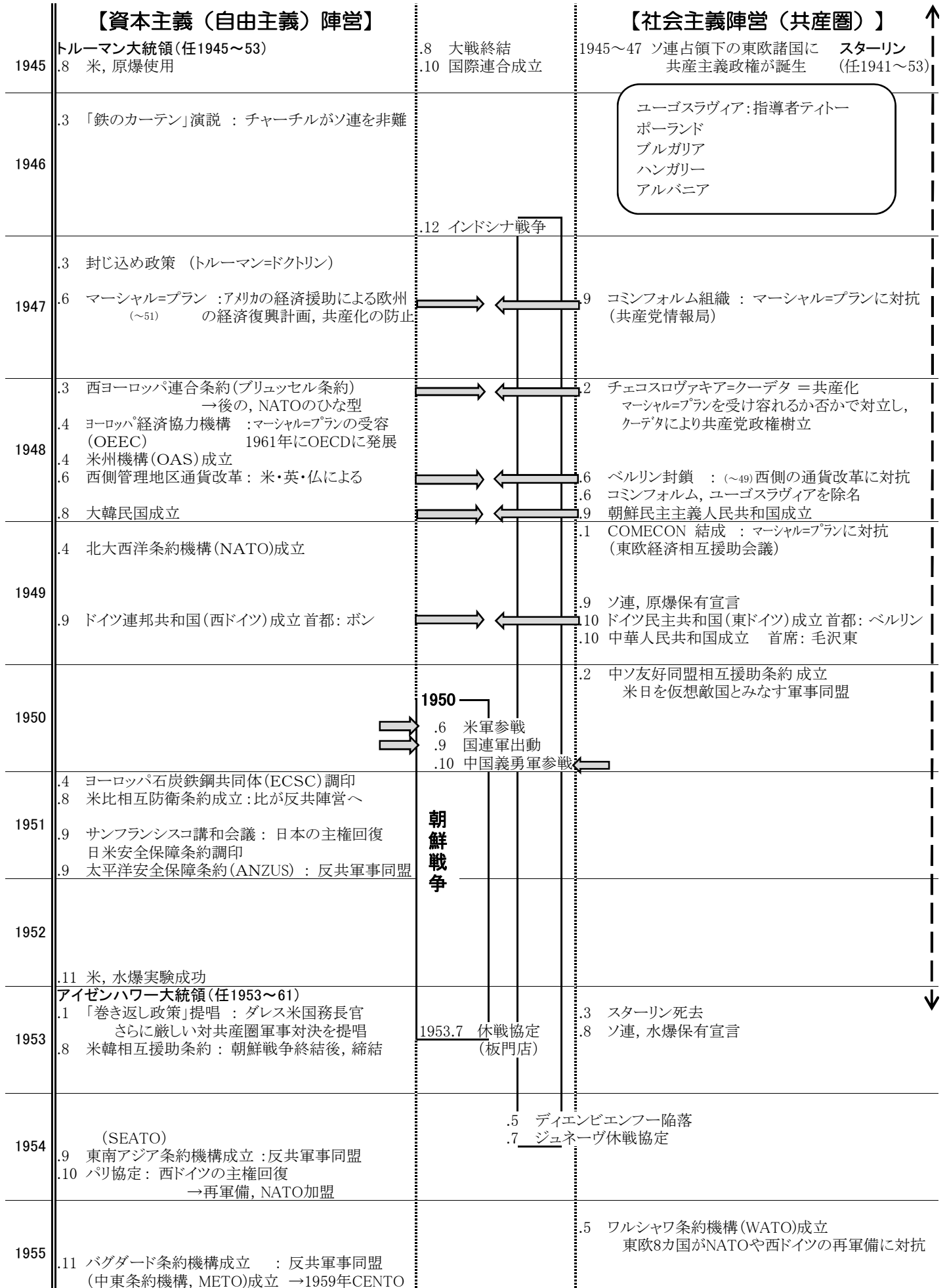
30 戦間期(3)

	<トルコ>	<西アジア諸国>	<インド>	<中華民国>	<日本>
1918	青年トルコ党内閣 同盟国側で敗北	委任統治領 英)イラク、ヨルダン、パレスティナ 仏)シリア、レバノン	大戦中はイギリスに協力 戦後の自治を約束	軍閥の割拠 地主・帝国主義と結ぶ	石井・ランシング協定 1918 シベリア出兵
1919	トルコ帝国の解体 1919～23 ギリシア=トルコ戦争	エジプトにワフド党 反英独立運動 アフガニスタン独立 第3次アフガン戦争で 英より	民族運動の高揚 1919 インド統治法	民族運動の高揚 1919 五・四運動	19 (朝鮮)三・一独立連 反日独立運動
1920	1920 セーブル条約 主権喪失、西ア領喪失 トルコ国民党結成 指導者:ケマル=パシヤ	戦後のパレスティナ問題	19-22 第一次反英運動 指導団体:国民会議派 指導者:ガンディー 運動形態:非暴力・不服従	中国国民党の結成 指導者:孫文	
1921	ギリシア軍を撃退	イランでレザー=ハーン が首都を占領し政権掌握		1921 中国共産党の結成	
1922	11 トルコ革命 スルタン制廃止	1922 エジプト王国の成立 英が保護権停止		ワシントン会議 中国に関する九か国条約	九か国条約
1923	1923 ローザンヌ条約 10 トルコ共和国 成立 初代大統領:ケマル=パシヤ 近代化推進				1923 関東大震災
1924	3 カリフ制廃止	イブン=サウードが アラビア半島統一	分割統治と内部分裂で 運動が後退	1924 第1次国共合作 方針:連ソ・容共・扶助工農	
1925	婦人解放・政教分離	イランにパフレヴィー朝 成立 近代化推進 (カージャール朝滅亡)		五・三〇事件 孫文の死	1925 普通選挙 治安維持法
1926				「北伐」の開始 軍総指揮官:蒋介石	
1927			社会主義・農民運動の高揚	上海クーデター、国共分離	金融恐慌 第1次山東出兵
1928	文字改革 ローマ字採用 アラビア文字廃止			南京に国民政府成立 主席:蒋介石 北京を占領し北伐完了	済南事件 奉天事件 (張作霖爆殺)
1929			第2次反英運動 1929 ラホール大会 “プールナ=スワラージ” (完全独立) 指導者ガンディー 非暴力・不服従 英商品排斥		
1930			30～32 英印円卓会議 成果なし		
1931				1931 柳条湖事件	1931 柳条湖事件、満州事 日中15年戦争
1932	32 サウジアラビア王国の成立 王:イブン=サウード 32 イラク王国の成立 国際連盟加盟 英は政治・軍事上の権利留保			1931 中華ソビエト共和国臨時政府 (拠点:瑞金 主席:毛沢東)	「満州国」建国宣言 32 五・一五事
1933					1933 国際連盟脱退
1934				1934 長征(大西遷) 根拠地を延安に	溥儀、満州国皇帝に即位
1935	35 国号をペルシャから「イラン」に改称		1935 新インド統治法 ・制限付きの自治を認め 独立運動を懐柔 ・独立運動の停滞	1935 八・一宣言	36 二・二六事 日独防共協定
1936		36 エジプトの完全独立 英はスエズ運河地帯の 駐兵権を留保		1936 西安事件	1936 日独防共協定
1937			37 全インド=ムスリム連盟 国民会議派と対立 指導者:ジンナー	1937 第二次国共合作 抗日民族統一戦線の結成	1937 盧溝橋事件 日中戦争
1938					38 国家総動員
1939	43 仏)レバノン共和国成立 44 仏)シリア共和国独立 45 英)ヨルダン王国独立				ノモンハン事件 1940 日独伊三国同盟 1941 太平洋戦争、開戦

32国共内戦と中華人民共和国の成立

	【列強の中国侵略】	【保守・支配層】	【民衆・民族運動】
1910		1912 中華民国 首都:南京 1912 清朝滅亡 宣統帝溥儀が退位 保守派の袁世凱が臨時大總統 1913 袁世凱が大總統に就任 国民党や革命派を弾圧 1915 袁世凱は帝政を企図するが挫折 1916 袁世凱、死去 軍閥の割拠 16~ 安徽派 段祺瑞 20~ 直隸派 24~ 奉天派 張作霖	1911 辛亥革命 ← 革命派は資金・力不足 清朝の漢人保守派 袁世凱と取引 1913 袁世凱政権に対する第二革命が失敗 1914 孫文、中国革命党を結成 1915 文学革命 ← 白話運動 雑誌「新青年」創刊 (陳独秀) 胡適・魯迅 らが活躍
1914	1914 第一次世界大戦 勃発 1915 日本による21カ条要求 1917 日米間で石井・ランシング協定 1919 パリ講和会議 1919 ヴェルサイユ条約は21カ条要求を承認		1919 五・四運動 北京大学生の街頭デモに端を発する 反帝運動・軍閥打倒の民衆運動
1920	1921~22 ワシントン会議 1922 9カ国条約 :石井・ランシング協定の破棄 4カ国条約 :日英同盟の破棄 1927~28 日本軍の山東出兵 1928 済南事件 1928 張作霖爆殺事件 :関東軍の謀略 →息子の張学良は国民政府に協力	軍閥打倒 1928 国民政府の中国統一 首都:南京 1928 南京国民政府 成立 主席: 蒋介石 1928 北伐再開、北京占領により北伐完成	1919 中国国民党結成:孫文 1921 中国共産党結成 委員長: 陳独秀 1924 第一次国共合作 三大方針: 連ソ・容共・扶助農工 1925 五・三〇運動 1925 孫文、死去 南京国民政府の成立
1930	1931 満州事変 :日本軍が柳条湖で鉄道爆破 1932 上海事変 :国際社会の目を満州からそらすため 1932 国際連盟がリットン調査団を派遣 1932 満州国 建設 :日本の傀儡国家 1935 防共を名目に内モンゴル、華北に侵入 1937 日中戦争の開始 1937 盧溝橋事件 を機に全面戦争 1937 南京陥落 →南京に親日政権(汪兆銘)	国共内戦 中国国民党の蒋介石政権 浙江財閥と提携 米・英等の帝国主義列強の支援 地方軍閥と妥協 1927 八路軍、創設 :中国共産党の軍隊 1931 中華ソヴィエト共和国臨時政府 樹立 主席: 毛沢東 根拠地: 瑞金 1934 長征 :根拠地を 延安 に移動 ~36 1935 八・一宣言 (内戦停止 と民族統一戦線を提唱)	1926 北伐開始 国民党軍総司令: 蒋介石 1926 武漢政治成立(国民党左派) 1927 上海クーデタ: 蒋介石による 共産党弾圧 1937 第二次国共合作 中国共産党は八路軍を編成し抗戦、 農村基盤
1940	1945 日本の敗戦	1945 中国の勝利 1946 第3次国共内戦の本格化 蒋介石の国民政府 敗北 中国共産党の勝利による中国統一	
1950	【対外関係】 自由主義国は台湾政府を支持 1950 サンフランシスコ平和条約	1949 中華人民共和国の成立 主席: 毛沢東 首相: 周恩来 1950 土地改革法を実施、土地を農民へ 商工業の国有・国営化 1952~ 社会主義化 1953 第1次5カ年計画 :農業の集団化など 1958 大躍進 1958 大躍進 農村に 人民公社 を組織 1959 国家主席に 劉少奇	
1960	1960 中ソ論争の公然化、ソ連人技術者引き上げ 1969 中ソ国境紛争 :ダマンスキー島で武力衝突	1966 文化大革命 1966 プロレタリア文化大革 開始 :劉少奇や鄧小平を「走資派」 1967 水爆実験に成功 として失脚させ、 毛沢東が権力奪回 1970 人工衛星の打ち上げに成功 1976 文革の終了 1976 周恩来首相、毛沢東主席の死 →四人組逮捕	
1970	1971 中華人民共和国の国連代表権承認 1972 ニクソン米大統領の訪中 1972 田中角栄首相の訪中「日中共同声明」 (日中国交回復)	1976 改革開放政策 市場経済の導入 1976 華国鋒が党主席 1977 鄧小平が復活 最高指導者に 1978 新憲法発布(「四つの現代化」)	
1980	1978 日中平和友好条約締結 1979 米中 国交回復 1989 ゴルバチョフ首相訪中 中ソ関係修復 1997 香港返還(イギリスより) 一国二制度	1981 胡耀邦が党主席 1987 趙紫陽が党総書記 1989.6.4 天安門事件 : 民主化運動を弾圧	

34 米ソ冷戦と第三世界(1)



34 米ソ冷戦と第三世界(2)

＜東西両陣営の形成＞		＜アジア諸国の独立＞	
(西側)	(東側)		
1945		.8 インドネシア共和国の独立宣言 大統領: スカルノ	
1946	「鉄のカーテン」演説	.9 ベトナム民主共和国独立宣言	
1947	封じ込め政策 マーシャル=プラン提唱	.7 フィリピン共和国独立宣言 .12 インドシナ戦争開始: (~54) 対仏	
1948	西ヨーロッパ連合条約 通貨改革	.8 インド・パキスタン独立 →カシミール帰属問題	
1949	NATO結成 ドイツ連邦共和国成立	.1 ビルマ独立 .2 セイロン独立 .5 イスラエル独立→パレスチナ戦争(第1次中東戦争) 大韓民国成立 朝鮮民主主義人民共和国成立	
1950		.7 ラオス王国独立 .11 カンボジア王国独立 .10 中華人民共和国成立 →.12 国民政府, 台湾遷都 .1 インド共和国成立	
1951	サンフランシスコ講和条約 太平洋安全保障条約(ANZUS)		
1952	米, 水爆実験成功		
1953	アイゼンハワー大統領就任 1953年 スターリン死去		
1954			
1955	1955年 ワルシャワ条約機構(WATO)成立		
1956	＜雪解け＞		
1957			
1958			
1959			
1960			
1961			
1962			
1963			

1946
1950
1954
インドシナ戦争
朝鮮戦争

＜アラブ民族主義の高揚＞

.7 エジプト革命
自由将校団ナギブの指導

1953年 エジプト共和国

ナセルが大統領に就任

＜第三勢力の形成＞

.6 ネルー・周恩来会談
「平和五原則」

1955年 アジア=アフリカ会議 (バンドン会議)
「平和十原則」

ハグダート条約
機構参加拒否

英・米のアスリン=ハイダム建設援助
打ち切り

.7 スエズ運河国有化宣言
.10 スエズ戦争(第2次中東戦争)

アジアの独立
↓
パン=アフリカ主義
の台頭

58.8 イラク革命
→ハグダート条約機構
から脱退

59.8 METOを中央条約機構
と改称 (CENTO)

1960年 アフリカの年 17の黒人国家が独立
1960年 石油輸出国機構 (OPEC) 発足

1961年 第1回非同盟諸国首脳会議
ベオグラードにおいて
ネルー・テイー・ナセルの提唱による

.7 アルジェリア独立 :ド=ゴール大統領が承認
.10 中印国境で両軍武力衝突 :非同盟諸国間の矛盾

1963年 アフリカ統一機構(OAU)結成
アフリカの諸問題を検討
→2002年にアフリカ連合(AU)に代わられた

.7 ジュネーヴ4巨頭会談 :アジア=アフリカ会議に対抗
「雪解け」の象徴とされた

バグダード条約機構成立

.2 フルシチョフのスターリン批判
平和共存政策 →中ソ対立激化
.4 コミンフォルム解散

社会
の
会
動
主
義
圈

.6 ポズナニ暴動 :ポーランド反ソ暴動
.10 ハンガリー事件:ソ軍により鎮圧

.9 フルシチョフ訪米 :アイゼンハワーと対談
米ソ協調の精神が生じた

英仏の植民地維持を, 米ソが牽制

.8 ベルリンの壁, 建設 :東西冷戦とドイツ分断の象徴


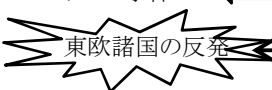
.10 キューバ危機 :人類が核戦争の危機に直面
ソ連の譲歩により危機回避
.1 中ソ対立本格化

.8 部分的核実験停止条約(PTBT) :米・英・ソによる

35 グローバル化した世界と日本(1)

	<アメリカ合衆国>	<ベトナム・カンボジア>	<ラテンアメリカ諸国>
1960			
1961	○ニューフロンティア政策	1946~54 インドシナ戦争	1959 キューバ革命 カストロらが、バティスタ政権を打倒
ケネディ	1962 キューバ危機	↓	1962 キューバ危機
	1963 部分的核実験停止条約 ベトナム戦争介入 →	北緯17度線で南北分割 北) ベトナム民主共和国 ↳ 中支援 ホーチミン指導 VS 南) ベトナム共和国(南ベトナム) ↳ 親米政権 ゴディン=ディエム大統領	1961 キューバの社会主義宣言 ソ連との関係深める ↓ 1962 米州機構(OAS)がキューバ除名, 断交 ↓ ケネディ, キューバの海上封鎖を宣言 ↓ フルシチョフ, 米のキューバ侵攻断念を 条件に, ミサイル基地を撤去
1963	1963 暗殺		
1965	1964 公民権法成立	ベトナム戦争本格化 1965 (~75)	
	1964 キング牧師にノーベル平和賞		1965 米, 北爆開始 全面的軍事介入開始
ジョンソン	「自由世界の防衛」 →	1965.2 テト攻勢(米軍・南ベ軍敗退)	
	ベトナム反戦運動	1968 北爆停止	
1968	1968 キング牧師暗殺		
1970	1969 アポロ11号, 月面着陸	1970 ニクソン=ドクトリン 過剰な海外介入を控える	
ニクソン	1971 ドル=ショック : 金とドルの 兌換禁止	1973 ベトナム(パリ)和平協定 →米, ベトナム撤退完了	<軍事政権による支配> 例) ブラジル ヴェルガス政権打倒 アルゼンチン ペロン政権打倒 チリ 社会主義のアジェンデ政権打倒 →ピノチェト大統領就任 ・革命運動や労働運動を厳しく弾圧して 治安を確立 ・外資導入や自由主義的経済政策 ↓ 貧富の差の拡大 対外債務の累積 ↓ アメリカの介入 → 左翼勢力による抵抗運動 例) 1979 ニカラグア革命 1983 米, グレナダ侵攻 ← ソ連の支援 ↓ アメリカの政策転換 <民政移管へ>
	1972 中華人民共和国訪問	1975 サイゴン陥落 戦争終結	
	1972 第1次戦略兵器制限交渉調印 (第1次SALT)	1976 ベトナム社会主義共和国成立	
1973	1973 第1次石油危機	1977 東南アジア条約機構, 解消	
1974	1974 ウォーターゲート事件		
1975	フォード		
1977	○人権外交の展開	1978 ベトナム軍, カンボジア侵攻	
カーター	1978 エジプト=イスラエル平和条約仲介 (キャンプ=デーヴィッド合意)	<カンボジア内戦 ~91年> 中 → ボル=ポト派 VS → ベトナム A → シハヌク派 VS → ソ S → ソン=サン派 VS → 東欧 E → A → N →	
	1979 米中関係正常化		
	1979 スリーマイル島原発事故		
	1979 第2次戦略兵器制限交渉調印		
1980	1981 ○「レーガノミクス」政策の展開	1986 ドイモイ(刷新)採択 ベトナムの改革開放路線	
レーガン	1982 米ソ, 戦略兵器削減交渉 (START)		
	1984 レーガン, 「強いアメリカ」強調 軍備拡張と対ソ強硬外交 減税と高金利政策		
	「双子の赤字」: 財政赤字・貿易赤字		
	1985 ブラザ合意 : ドル高是正 ↓ 為替レート調整		
1987	1987 ブラックマンデー 株価大暴落=経済政策の失敗		
1987	1987 中距離核戦力全廃条約調印 (INF)		
1989	1989 マルタ会談 <冷戦終結>	1989 ベトナム軍, カンボジアから撤退	1989 米軍, パナマ侵攻
ブッシュ(父)	1991 湾岸戦争 ソ連解体		1990 ペルー, フジモリ大統領就任
	1991 第1次戦略兵器削減条約調印	1991 カンボジア和平協定調印 =カンボジア内戦終結	
1992	1992 北米自由貿易協定 (NAFTA)	1992 国連カンボジア暫定行政機構発足	
1993	1993 第2次戦略兵器削減条約調印		
1993	1993 パレスチナ暫定自治協定		
1995	1995 クリントン	1995 ベトナム, 米との国交正常化 →ASEAN加盟	

35 グローバル化した世界と日本(2)

	<アメリカ合衆国>	<西欧諸国>	<東欧諸国>	<ソ連>	
1960	1961 ○ニューフロンティア政策	1958 仏, 第五共和政成立		1960 中ソ技術者協定破棄	1953
1961	ケネディ 1962 キューバ危機 1963◇部分的核実験停止条約	1959 ドゴール仏大統領就任 1960 ヨーロッパ自由貿易連合 (EFTA)	1961 アルバニア, ソ連と断交 1961 ベルリンの壁, 建設 	1962 キューバ危機 1963 中ソ対立本格化 1963◇部分的核実験停止条約	フルシチョフ
1965	1963 ジョンソン 1964 公民権法成立 1965 ベトナム戦争開始 1968◇核拡散防止条約	1967 ヨーロッパ共同体 (EC)	1964 ルーマニア独自路線 1968 「プラハの春」 1968 チェコ事件 	1964 フルシチョフ, 解任 1965 ベトナム戦争開始 1968◇核拡散防止条約 ソ連, WTOによる介入 1968 プレジネフド・クトリン 東欧諸国に対する 制限主権論 1969 中ソ国境紛争	1964
1970	1969 ニクソン 1971 ドル=ショック 1972 中華人民共和国訪問 1972◇SALT-I 調印	1969 英, 北アイルランド紛争 1969 西独, ブラント首相 東方外交を展開	1970年代 デタント(緊張緩和)		1969
1975	フォード 1974 ウォーターゲート事件 1975 ベトナム戦争終結	1973 拡大EC 英など加盟 1973 第1次石油危機(第4次中東戦争による)	1972 西独, チェコ国交正常化	1972◇SALT-I 調印 1974 ソルジェニツィン追放 1975 ベトナム戦争終結	ブレジネフ
1980	1977 ○人権外交の展開 カーター 1978 エジプト=イスラエル平和条約仲介 (キャンプ=デーヴィッド合意) 1979 米中関係正常化 1979 スリーマイル島原発事故 1979◇SALT-II 調印 議会が批准拒否	1979 英, サッチャー政権 イギリス経済再建	1980 ポーランド, 「連帯」 指導者: ワレサ	1977 新憲法成立 1979 アフガニスタン侵攻 1979◇SALT-II 調印	1982
1985	1981 ○「レーガノミクス」政策の展開 レーガン 1982 米ソ, 戦略兵器削減交渉 (START) レーガン, 「強いアメリカ」強調 軍備拡張と対ソ強硬外交 減税と高金利政策 「双子の赤字」 1985 ブラザ合意 ↓ 1987 ブラックマンデー 1987◇INF全廃条約調印	1981 仏, ミッテラン連合政権 社会党中心 1982 独, コール内閣 ソ連や東欧諸国との 経済協力を推進	1980年代 米ソ対立の激化(新冷戦)		1985
1990	1989 ブッシュ 1989 ベルリンの壁, 崩壊 1989 米ソ首脳, マルタ会談	1989 東西ドイツ統一	1989 東欧革命		1985
1990	1991 湾岸戦争 1991◇START-I 調印	1992 マーストリヒト条約 ↓ 1993 ヨーロッパ連合(EU)	<冷戦終結>		1985
1995	1993◇START-II 調印 1993 パレスチナ暫定自治協定	1993 ヨーロッパ連合(EU)	1991 コメコンの解体 WTO解体	1990 バルト三国独立 1991 ソ連解体 1991◇START-I 調印 1993◇START-II 調印	ゴルバチョフ エリツィン

35 グローバル化した世界と日本(3)

	<アメリカ合衆国>	<パレスティナ問題>	<アラブ諸国>	<日本>
1960	1960 ○ニューフロンティア政策		1960 石油輸出国機構 成立	1960 新日米安全保障条約
1961	1961 ケネディ		1961 クウェート独立	1961 池田勇人
1962	1962 キューバ危機		1961 非同盟諸国首脳会議	☆高度経済成長
1963	1963◇部分的核実験停止条約			1964 東京オリンピック
1965	1963 ジョンソン	1964 パレスチナ解放機構成立 (PLO)		1964 佐藤栄作
1964	1964 公民権法成立			1965 日韓基本条約
1965	1965 ベトナム戦争開始	1967 第3次中東戦争(六日間戦争) 結果) イスラエルがシナイ半島占領		1967 公害対策基本法
1966	1968◇核拡散防止条約		1968 アラブ石油輸出国機構 (OAPEC)	1967 吉田茂, 死去
1967				1968 小笠原諸島返還
1970	1969 ニクソン	1969 PLO,アラファト議長就任	1970 エジプト, ナセル死去 →サダト大統領	○各地で大学紛争 1969 東大安田講堂事件
1971	1971 ドル=ショック			1970 よど号事件
1972	1972 中華人民共和国訪問 1972◇SALT-I 調印			1972 沖縄返還
1973	1973 第1次石油危機 ←	1973 第4次中東戦争(十月戦争) エジプト・シリア軍の奇襲→イスラエル勝利	OAPECの石油戦略	1972 田中首相, 訪中 日中国交正常化 円変動相場制
1974	1974 ウォーターゲート事件	1974 国連総会, PLOオブザーバー資格		1973 1973 第1次石油危機
1975	1975 フォード			1974 三木武夫
1976		1976 レバノン内戦拡大		1976 ロッキード事件
1977	1977 カーター	1977 エジプト大統領サダト, イスラエル訪問		1978 日中平和友好条約 福田赳夫
1978	1979 エジプト=イスラエル平和条約 (キャンプ・デーヴィッド合意)		1979 イラン革命 指導者: ホメイニ	1978 大平正芳
1979	1979 米中関係正常化		1979 イラク大統領に サダム=フセイン就任	1979 第2次石油危機
1980	1979 スリーマイル島原発事故 1979◇SALT-II 調印 議会在批准拒否		1980 イラン, 米と断交	
1981	1981 レーガン		1980 イラン=イラク戦争(〜88)	1980 鈴木善幸
1982	1981 ○「レーガノミクス」政策の展開	1982 イスラエル, シナイ半島全面返還	1981 エジプト, サダト大統領暗殺 →ムバラク大統領就任	1982 参議院, 比例代表制
1983	1982 米ソ, 戦略兵器削減交渉 (START)	1982 レバノン侵攻戦争		
1984	レーガン, 「強いアメリカ」強調 軍備拡張と対ソ強硬外交 減税と高金利政策 「双子の赤字」			1982 中曽根康弘
1985	1985 ブラザ合意 ↓ 1987 ブラックマンデー 1987◇INF全廃条約調印			1985 男女雇用機会均等法 1985 電電公社民営化 専売公社民営化 1987 国鉄民営化
1986		1988 米, PLOを承認		1987 竹下登
1989	1989 ブッシュ		1989 イラク, クウェート侵攻	1989 海部俊樹
1990	1989 冷戦終結			1991 宮沢喜一
1991	1991.1~3 湾岸戦争 : 多国籍軍VSイラク			
1992	1991◇START-I 調印			1992 PKO協力法
1993	1993 クリントン	1993 パレスチナ暫定自治協定 米) クinton大統領, イ) ラビン首相, PLO) アラファト議長		
1994		1995 イスラエル, ラビン首相, 暗殺		